

江戸川区障害者(児)実態調査 及びアンケート調査 報告書

平成29年5月

江戸川区

目次

第1章 調査の概要	3
1、調査の目的	3
2、調査の概要	3
(1) 障害者(児)実態調査	3
(2) アンケート調査	3
3、報告書の記載について	3
第2章 障害者(児)実態調査結果	5
1、基本属性	5
(1) 調査回答者の性別、年齢、住まい、障害種別	5
2、日常生活について	12
(1) 日常生活の支援状況について	12
(2) 日中活動について	14
(3) 外出について	16
3、その他	18
(1) 差別・偏見、相談相手について	18
(2) 障害者福祉サービスへの意見、要望及び生活上の喜び、悩みについて	20
第3章 アンケート調査結果	30
資料	37
1、障害者(児)実態調査 調査票	37
2、アンケート調査 調査票	41

第1章 調査の概要

1、調査の目的

本調査は、平成30年度から平成32年度を計画期間とする「第5期江戸川区障害福祉計画」及び「第1期江戸川区障害児福祉計画」策定の基礎資料として用いるために実施した。

2、調査の概要

(1) 障害者(児)実態調査

関係団体を通じ調査票775通を配付し、郵送にて回収した。

(平成28年12月1日現在)

調査期間は平成28年12月1日から平成29年1月13日までとした。

有効回収数(回答者数)は371(回収率:47.9%)

(2) アンケート調査

20歳以上の区民を住民基本台帳より無作為抽出し、200通郵送により配付し、郵送にて回収した。(平成29年2月1日現在)

調査期間は平成29年2月20日から平成29年3月15日までとした。

有効回収数(回答者数)は72(回収率:36.0%)

3、報告書の記載について

百分率について

百分率(%)は、すべて小数点以下第2位を四捨五入した数値であるため、合計が100%にならない場合がある。

図表の単位について

本文中の掲載したグラフ及びクロス集計の単位は、特にことわりのない限り「%」であらわしている。

複数回答の集計について

回答者数を分母として割合(%)を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を超えることがある。

単純集計及び分析について

各質問ごとに「単純集計」を行い、その特徴などを記述している。

クロス集計について

クロス集計表の記載にあたり、分析の柱となる項目（例えば、障害種別、年齢など）の「無回答」は掲載を省略している。したがって、分析の柱となる項目の回答者数の合計は、全体と一致しない場合がある。

第2章 障害者（児）実態調査結果

1、基本属性

(1) 調査回答者の性別、年齢、住まい、障害種別

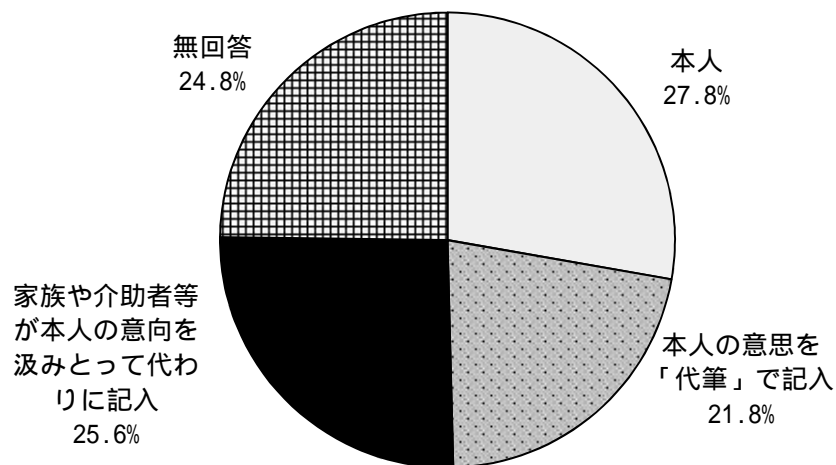
この調査記入方法についてご回答ください。(1つに)

ご本人以外が回答を記入された場合、ご本人との関係について回答。

この調査の記入者について「本人」が27.8%、本人以外の方が47.4%となっている。

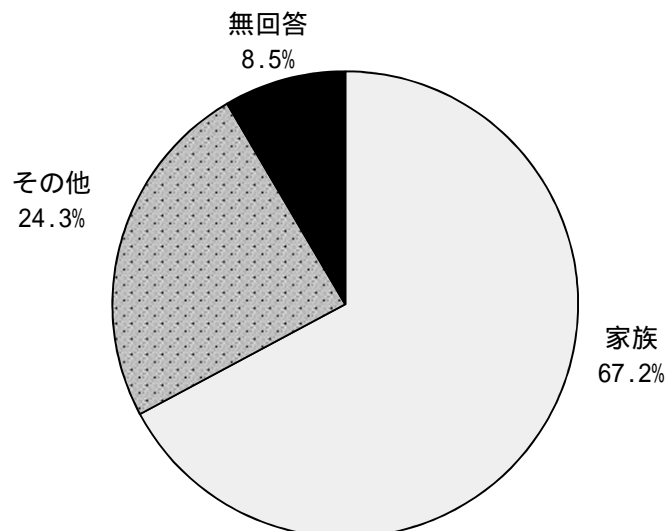
本人以外の記入者について「家族」が67.2%、その他(ヘルパーや施設職員など)が24.3%となっている。

記入方法



回答者数：371

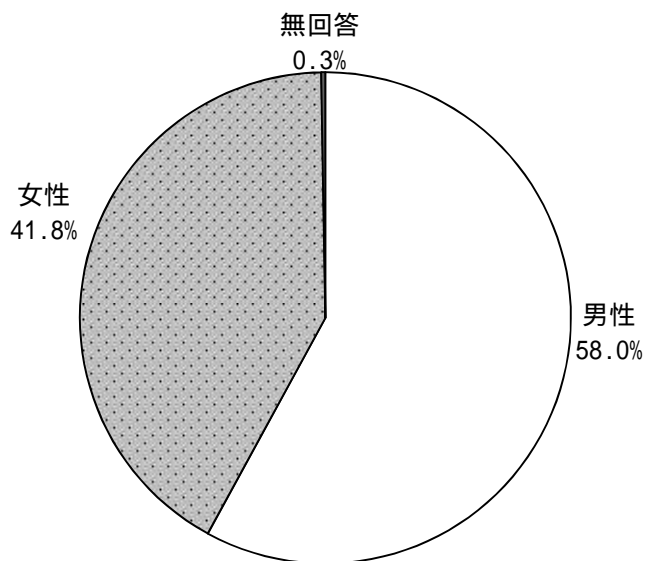
本人以外が記入した場合の記入者



回答者数：189

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに)

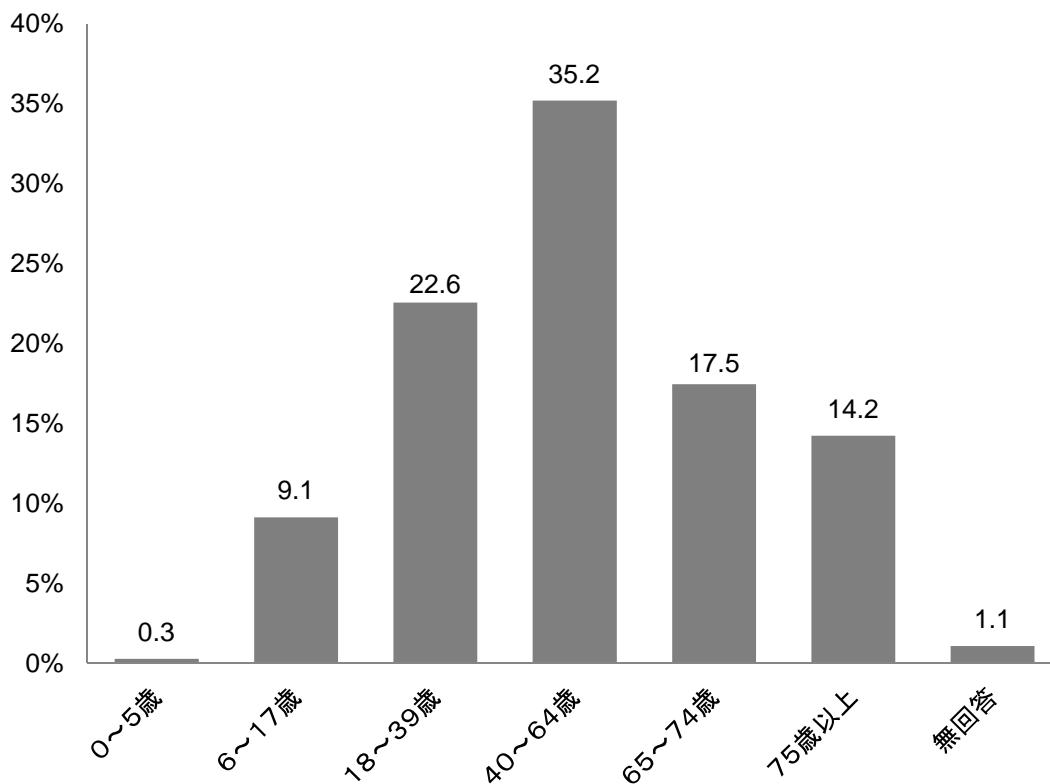
性別については、「男性」が58.0%で「女性」が41.8%となっている。



回答者数：371

問2 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

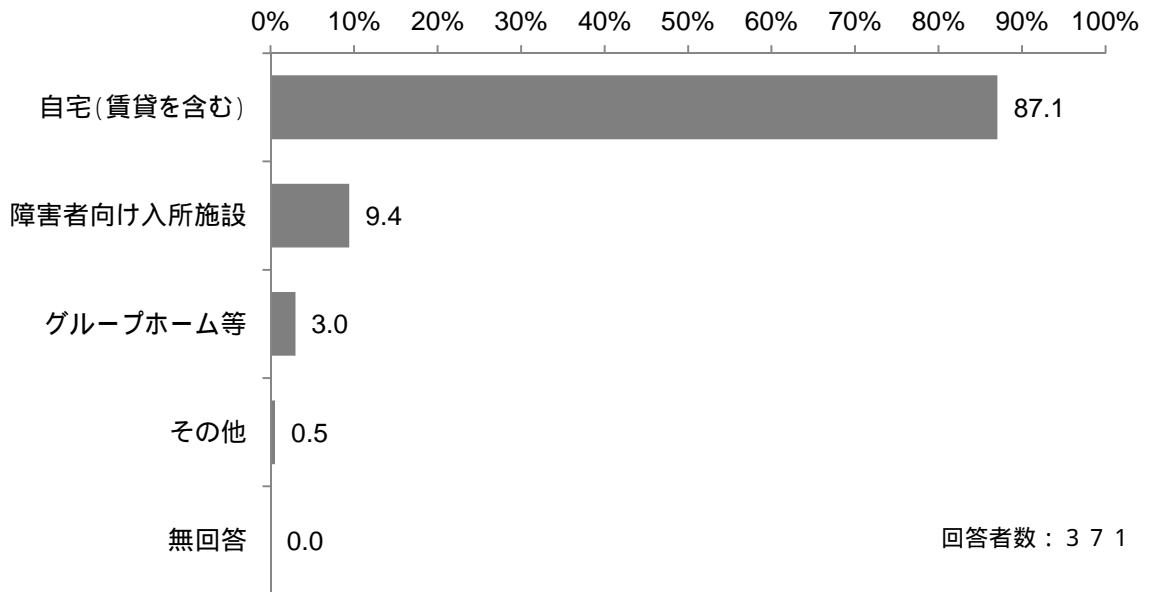
年齢については、「40～64歳」が最も多く35.2%、次いで「18～39歳」が22.6%、「65～74歳」が17.5%となっている。



回答者数：371

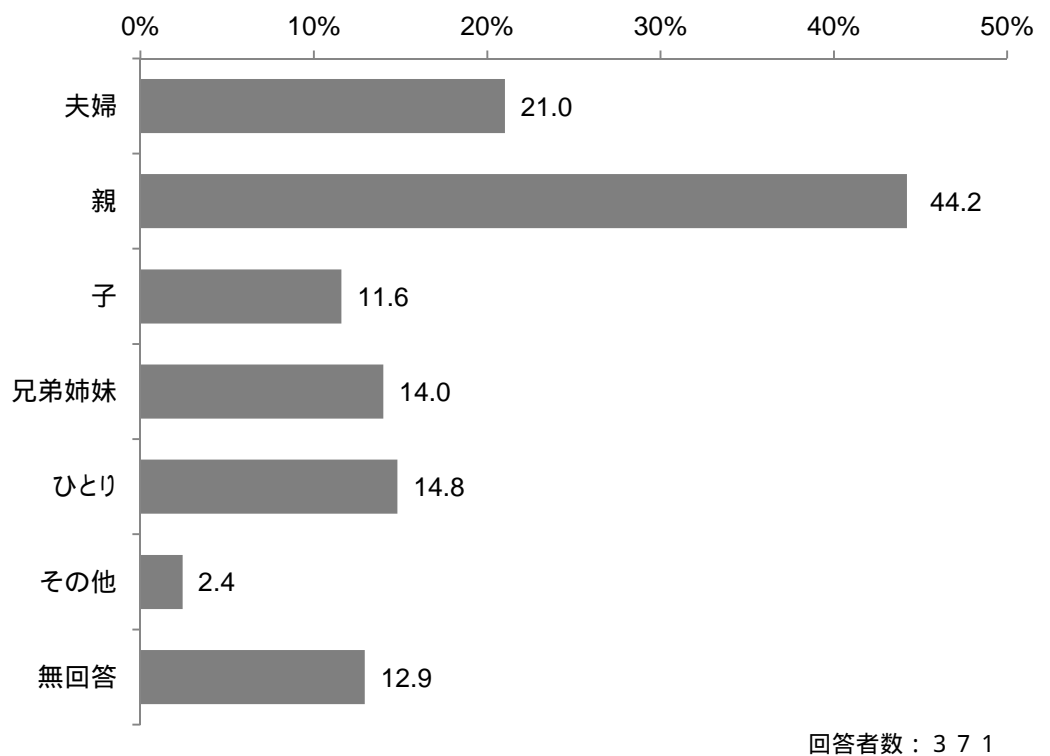
問3 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(1つに)

現在の住まいについては、「自宅」が87.1%、「障害者向け入所施設」が9.4%となっている。

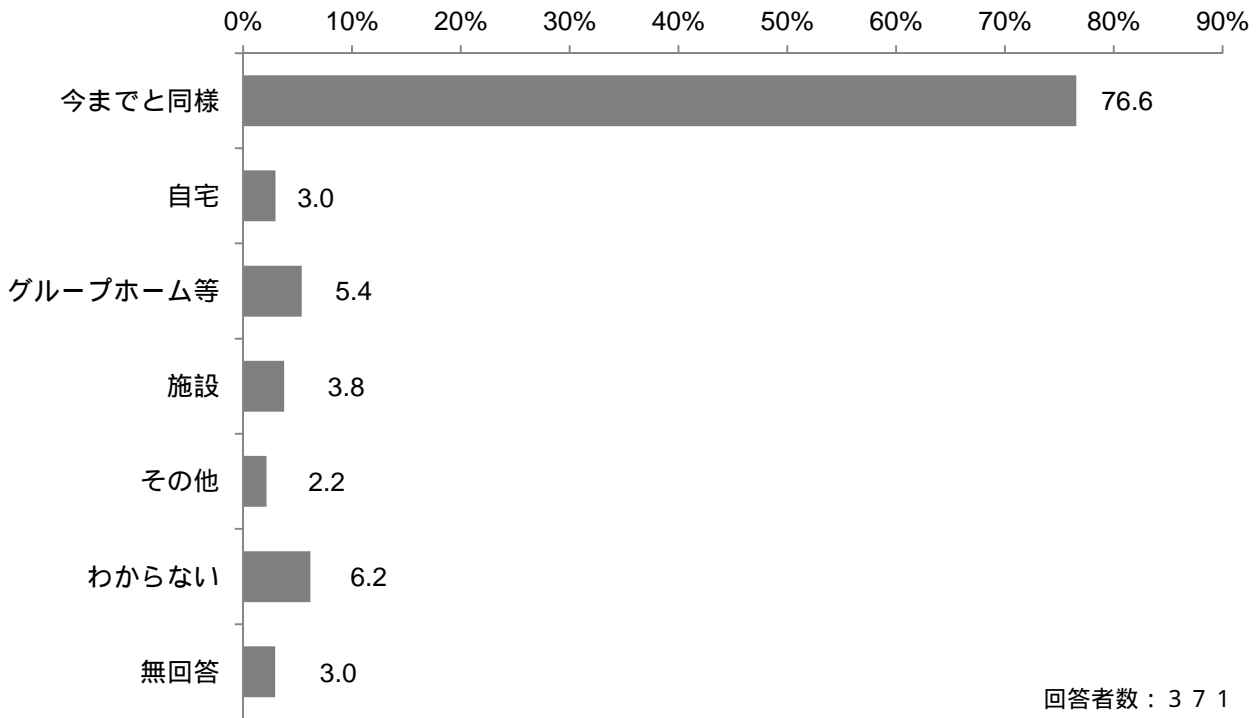


問4 あなたは、どなたと一緒に住まいですか。(あてはまるものすべてに)

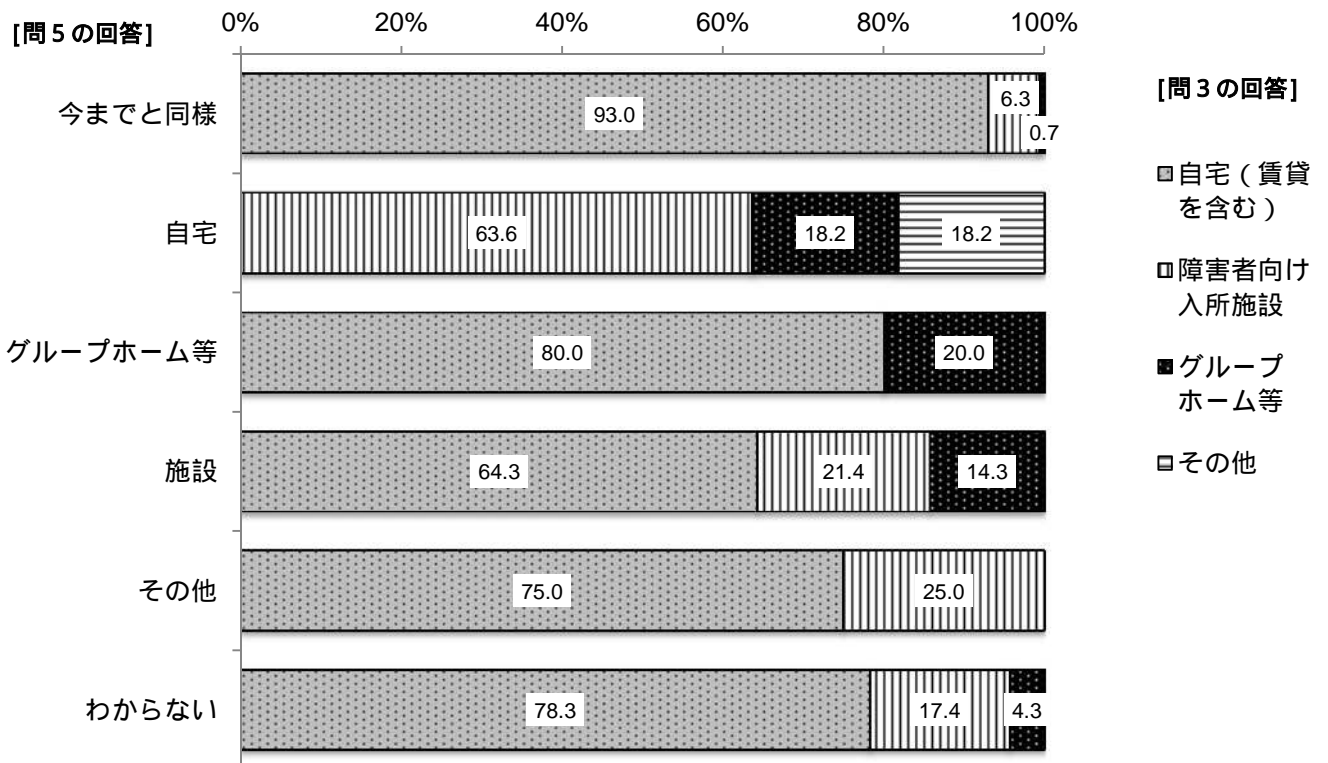
同居者については、「親」が44.2%と最も多く、次いで「夫婦」が21.0%、「ひとり」が14.8%となっている。



問5 あなたは今後、どのような暮らしをしたいと思っていますか。(1つに)
 今後どのように暮らしたいかについては、「今までと同様」が76.6%、「グループホームなど」が5.4%となっている。

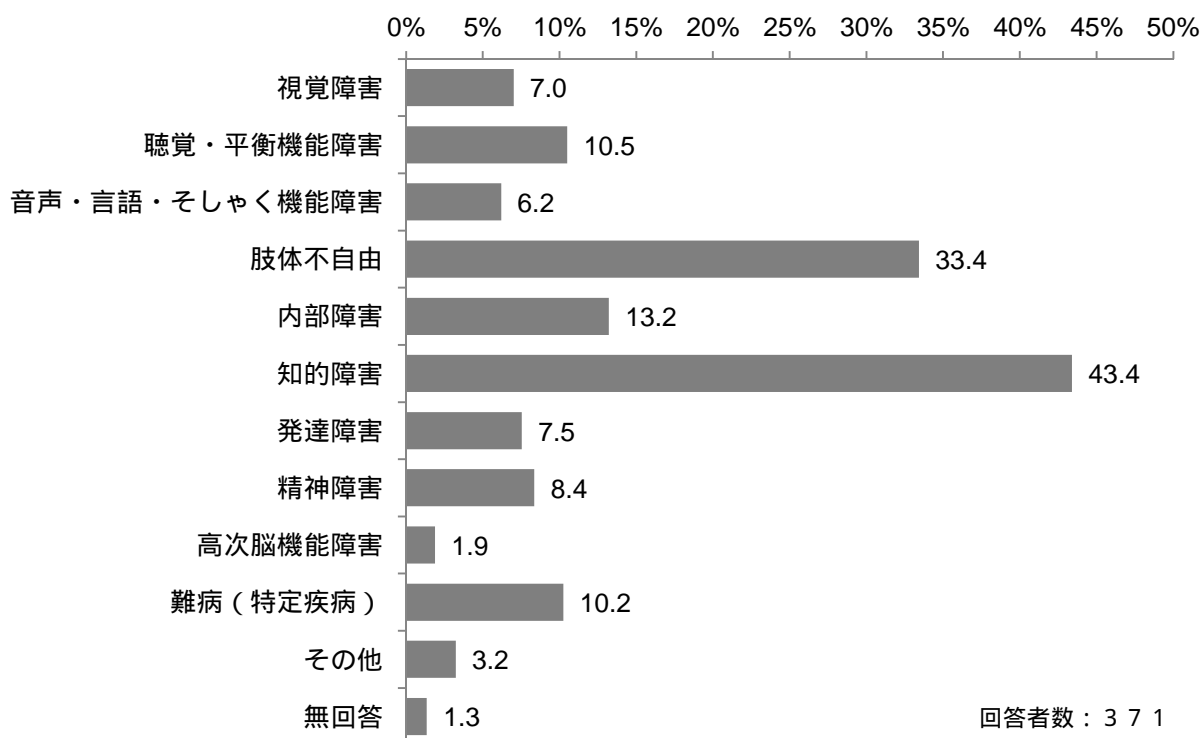


【問5の各回答における、現在の住まい(問3)の内訳】

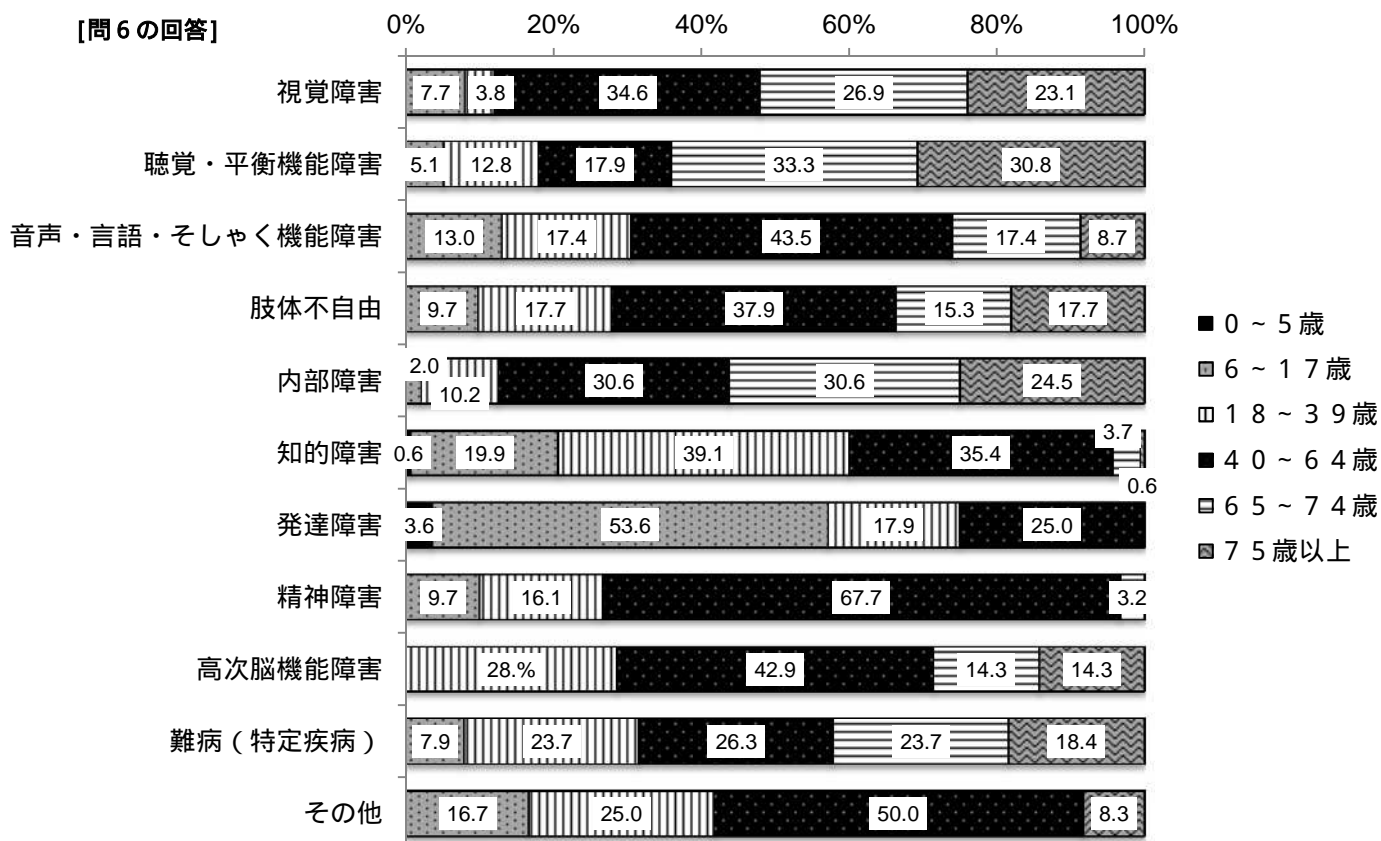


問6 あなたの障害は何ですか。(あてはまるものすべてに)

調査回答者の障害種別については、「知的障害」が43.4%、「肢体不自由」が33.4%、「内部障害」が13.2%となっている。



【問6の回答のうち、年齢別内訳】

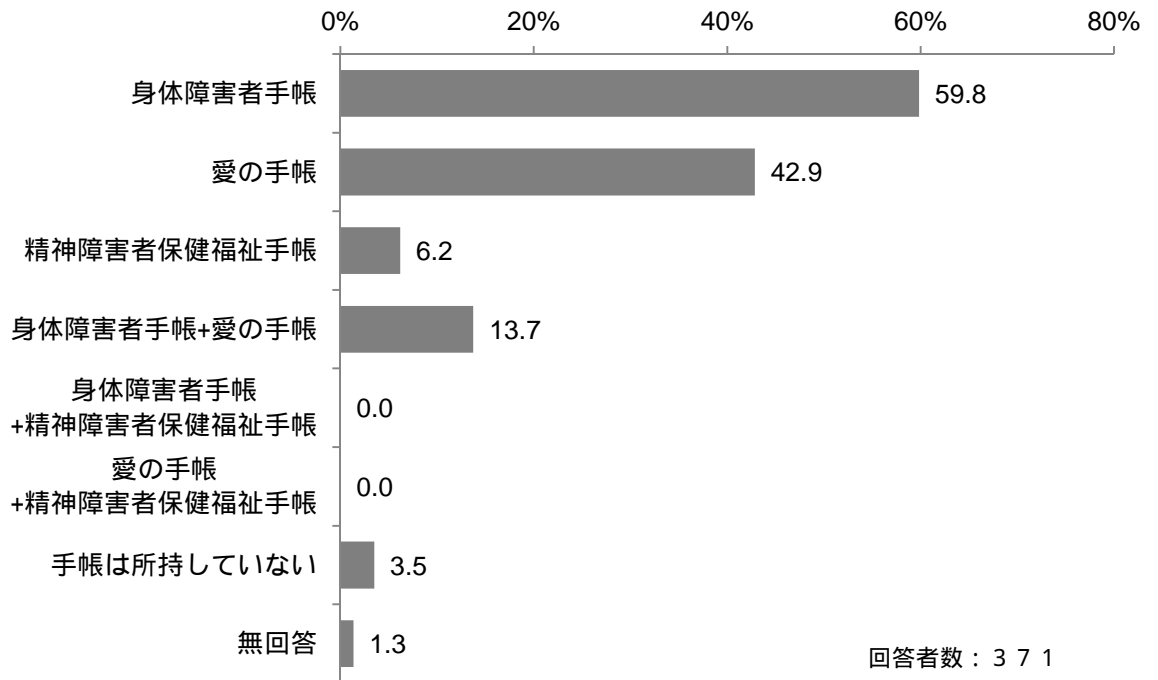


問7 あなたが現在お持ちの手帳の等級は何級または何度ですか。

(あてはまるものすべてに)

所持している手帳については、身体障害者手帳が 59.8%、愛の手帳が 42.9%、身体障害者手帳と愛の手帳の両方は 13.7%となっている。

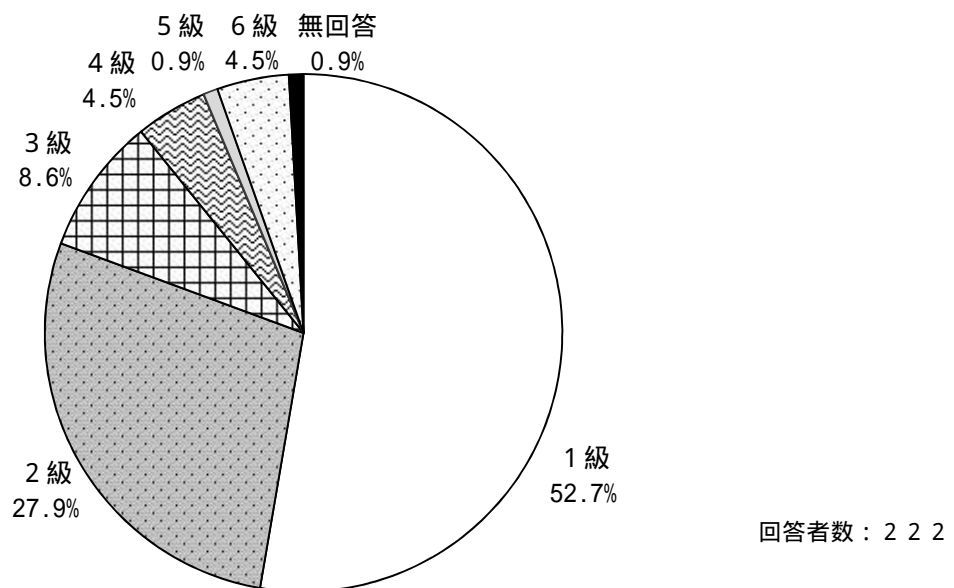
【調査回答者の所持している手帳】



手帳別等級内訳

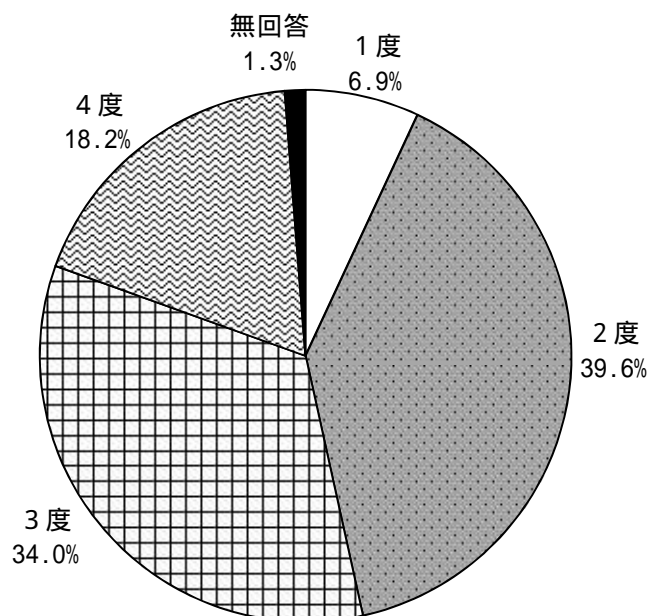
【身体障害者手帳】

身体障害者手帳所持者の等級内訳については、「1級」が 52.7%、「2級」が 27.9%となっている。



【愛の手帳】

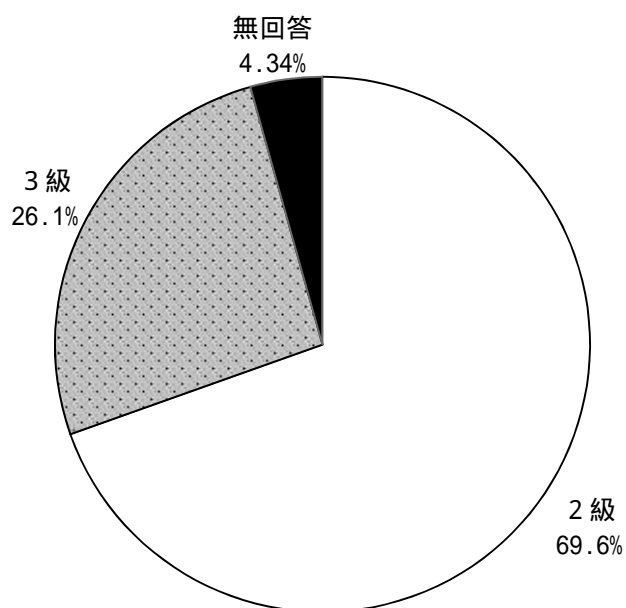
愛の手帳所持者の等級内訳については、「2度」が39.6%、「3度」が34.0%となっている。



回答者数：159

【精神障害者保健福祉手帳】

精神障害者保健福祉手帳所持者の等級内訳については、「2級」が69.6%、「3級」が26.1%となっている。



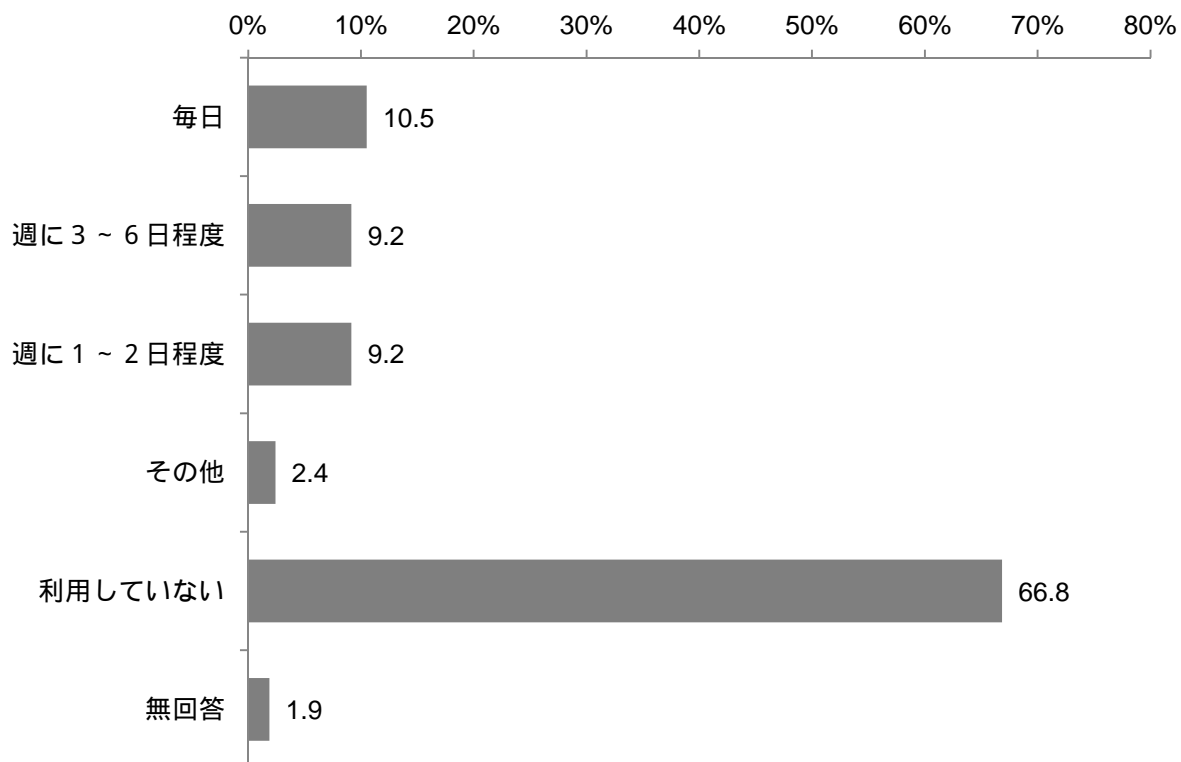
回答者数：23

2、日常生活について

(1) 日常生活の支援状況について

問8 自宅において食事や入浴等の日常生活上の支援のために福祉サービス(ホームヘルパー等)をどの程度利用していますか。(1つに)

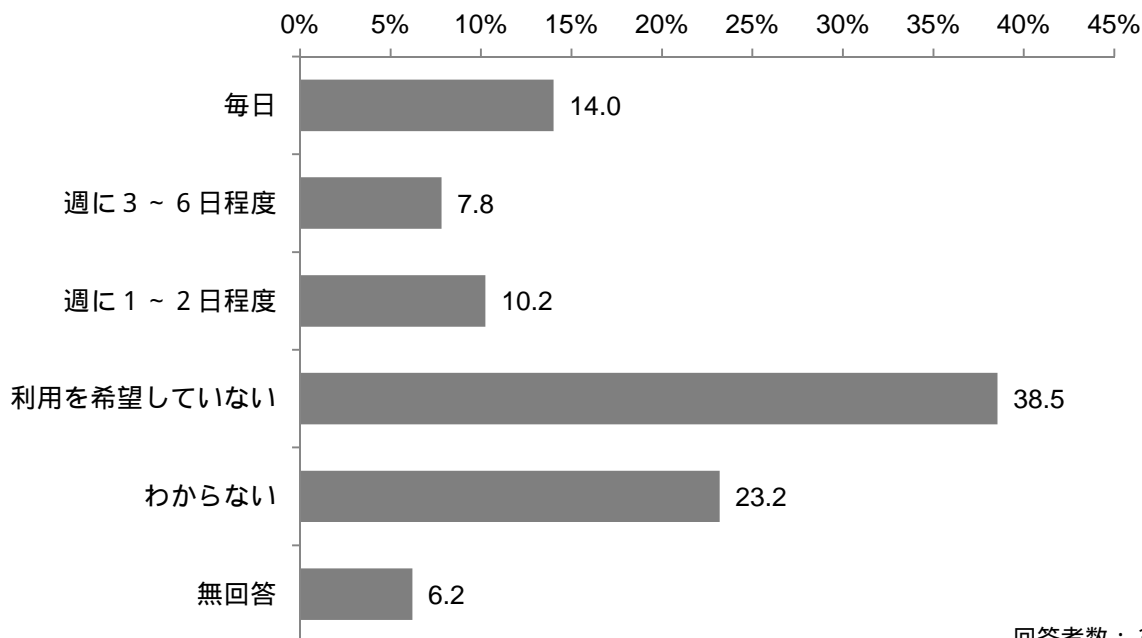
日常生活上の福祉サービスの利用状況については、「利用していない」が66.8%で、利用している方の合計は「毎日」の10.5%を含め28.9%となっている。



回答者数：371

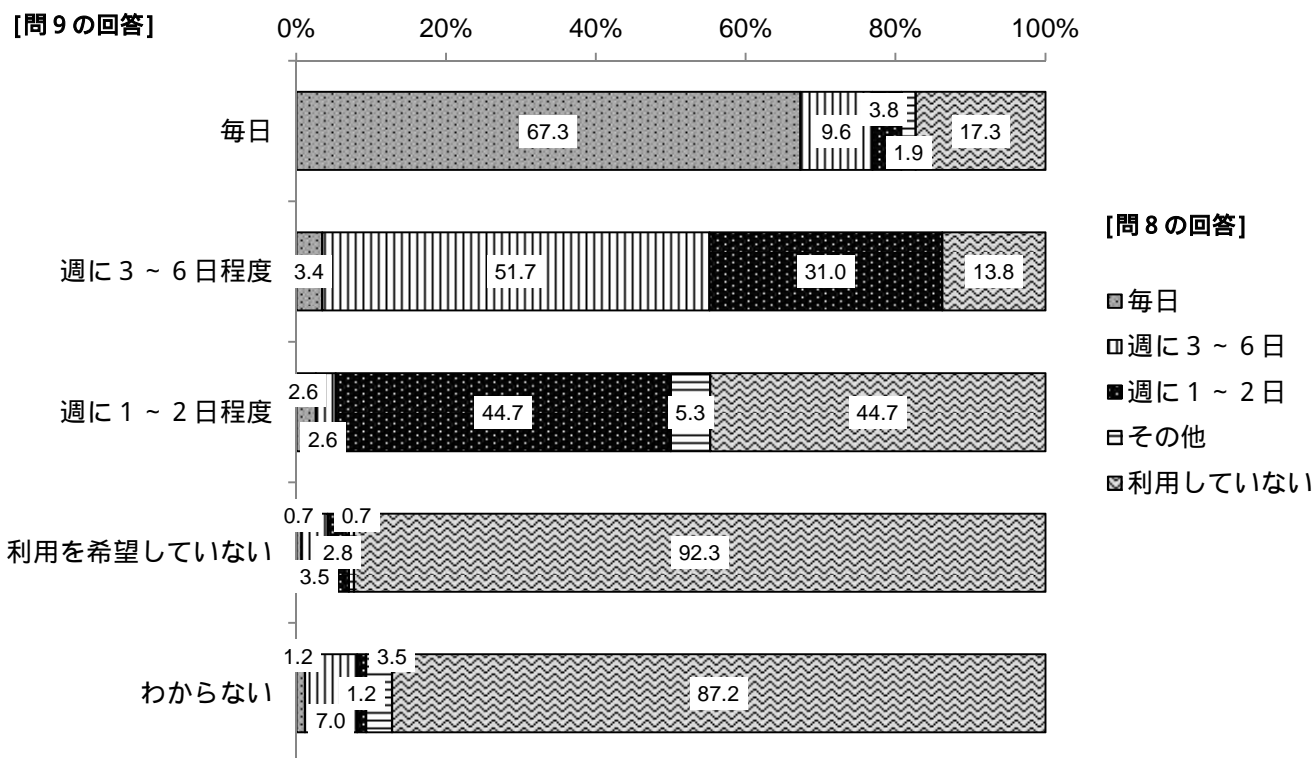
問9 食事や入浴等の日常生活上の福祉サービス（ホームヘルパー等）をどの程度利用したいですか。（1つに）

日常生活上の福祉サービスの利用希望については、「希望していない」が38.5%で、「わからない」が23.2%、「毎日」が14.0%となっている。



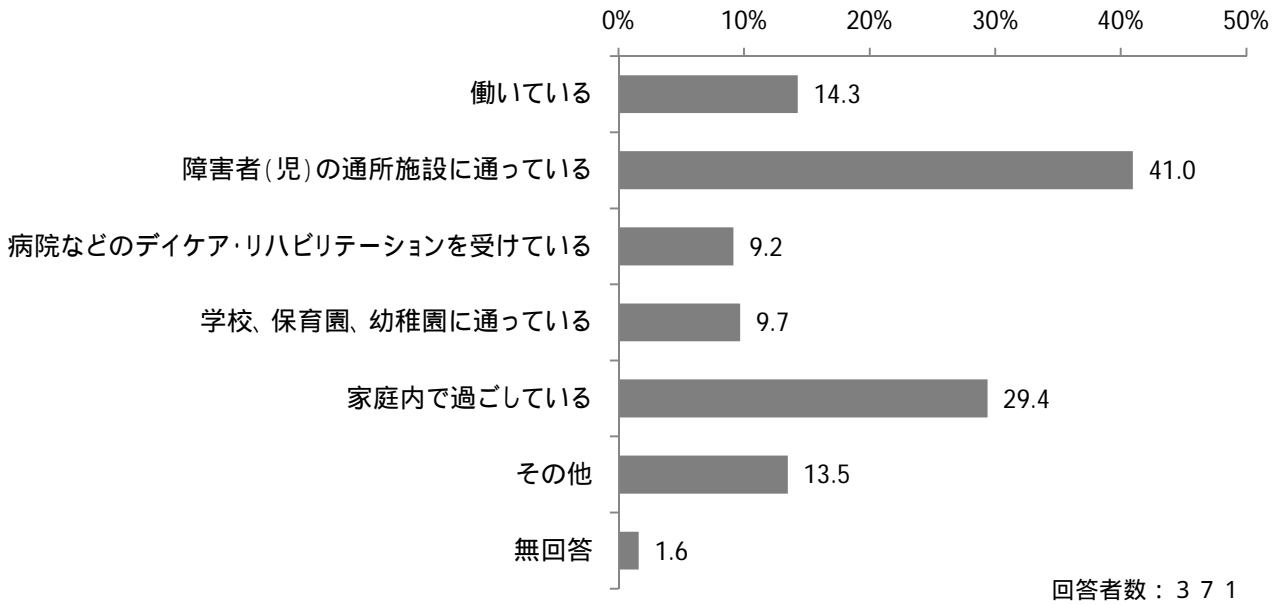
回答者数：371

【問9の各回答における福祉サービスの利用状況（問8）の内訳】

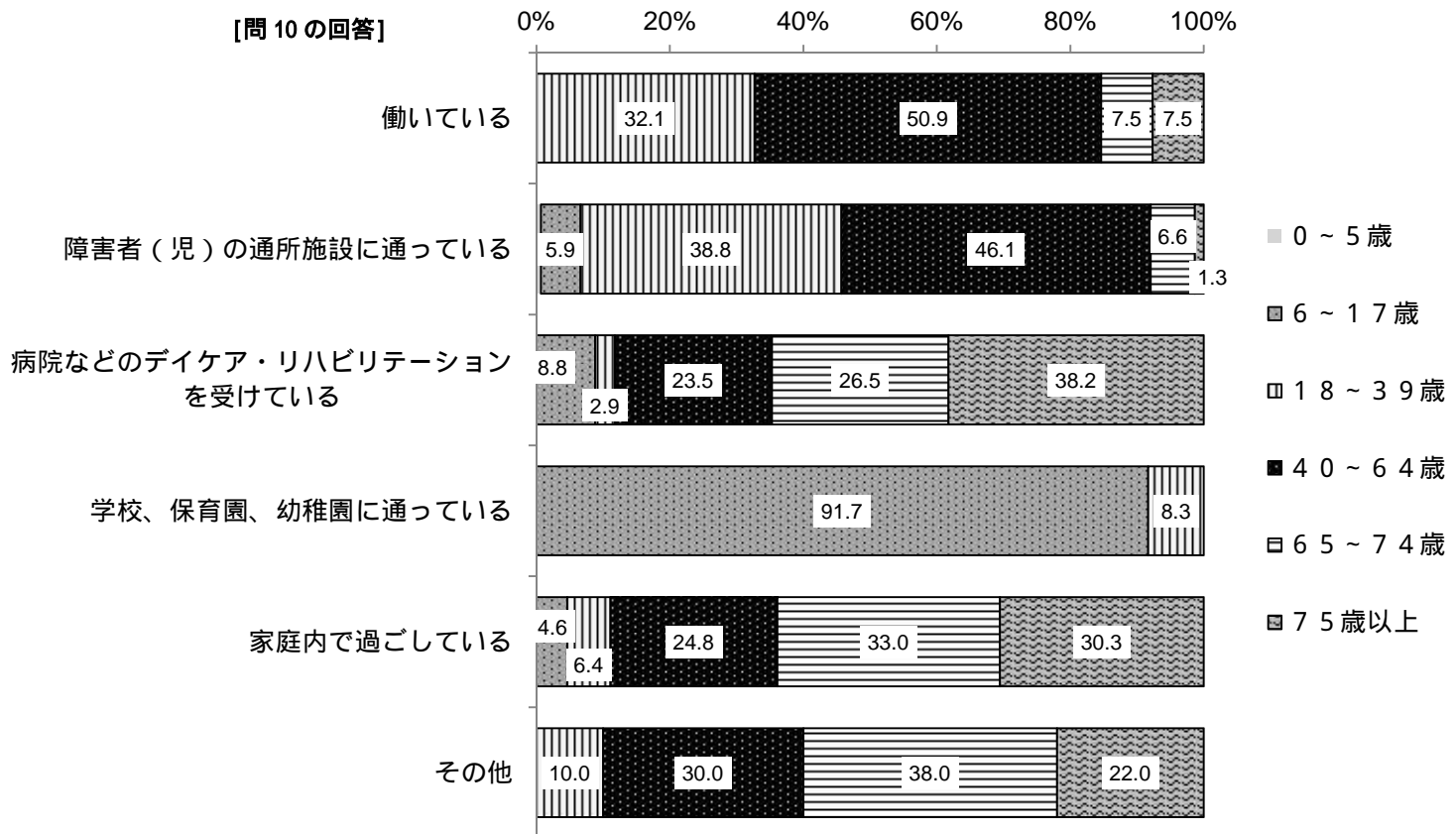


(2) 日中活動について

問10 あなたは、日中はどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに)
 日中の過ごし方については、「障害者(児)の通所施設に通っている」が41.0%で
 「家庭内で過ごしている」が29.4%となっている。

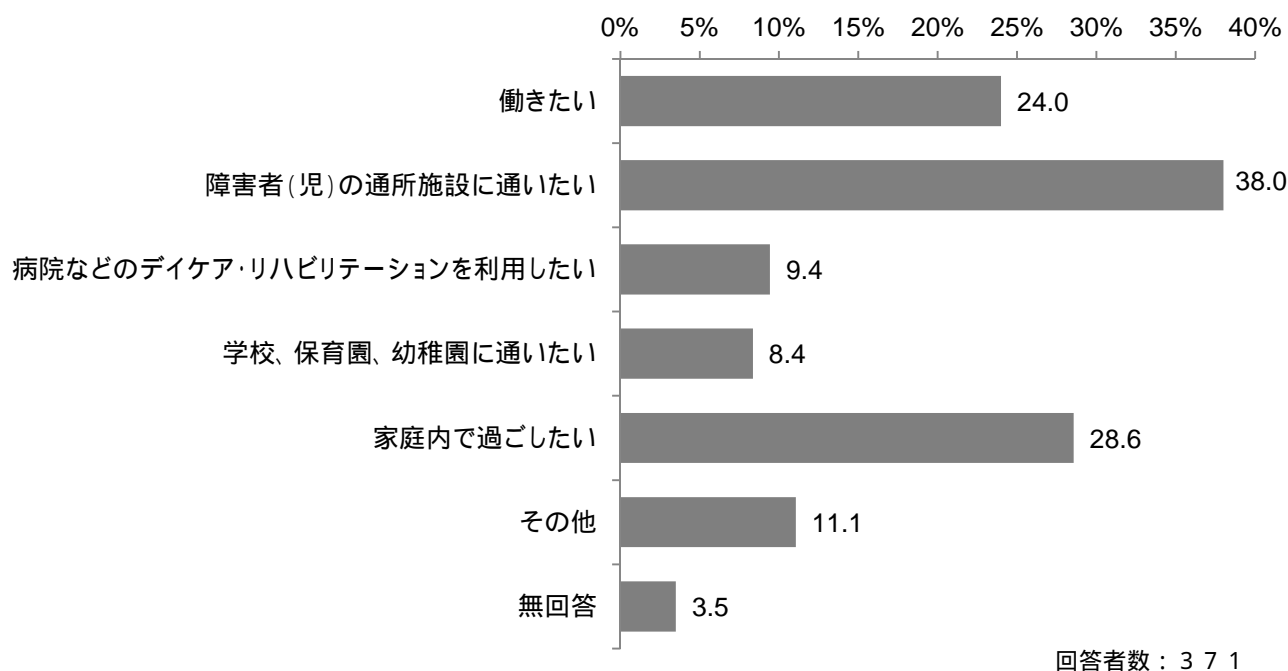


【問10の回答のうち、年齢別内訳】

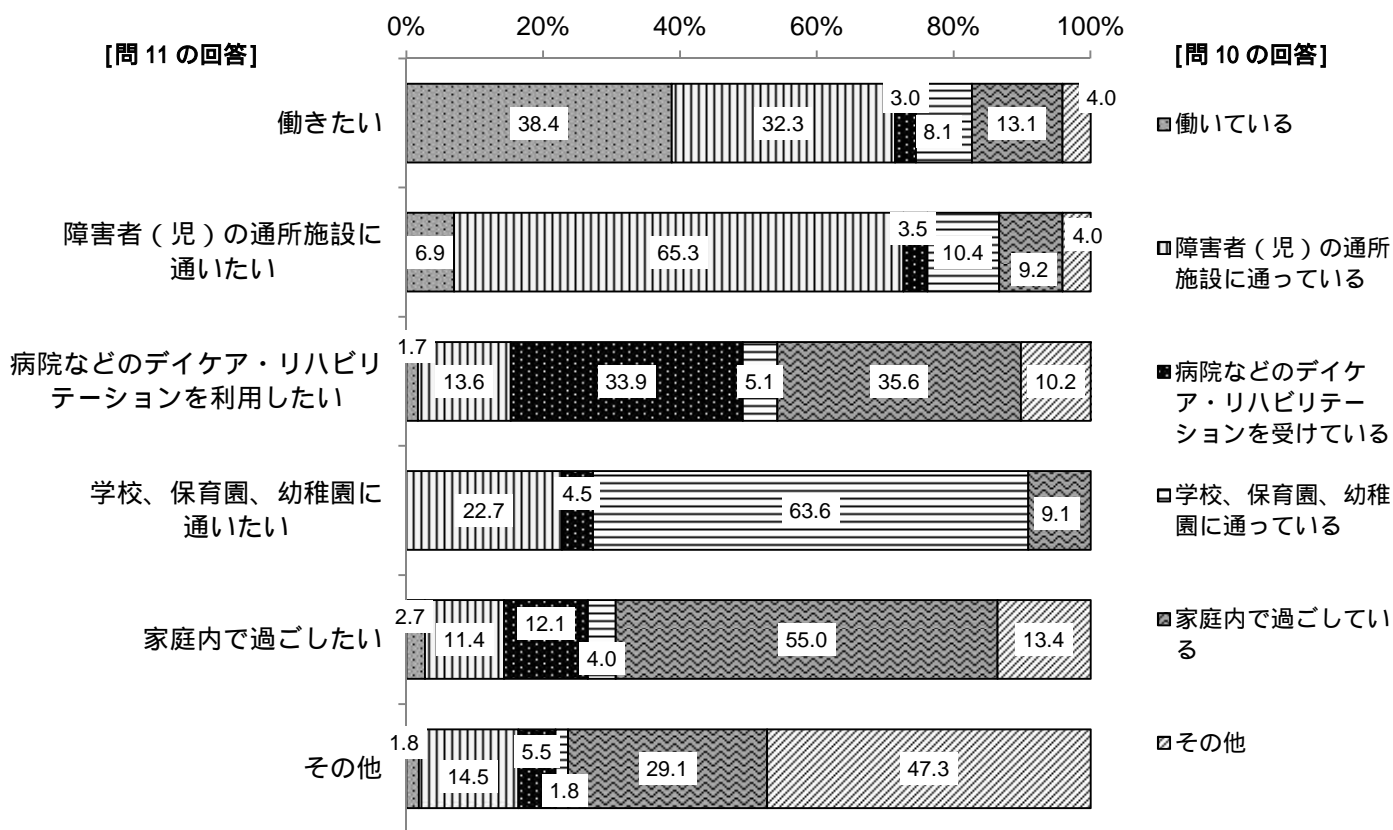


問11 今後、日中はどのように過ごしたいですか。(あてはまるものすべてに)

今後の日中の過ごし方については、「障害者(児)の通所施設に通いたい」が38.0%、「家庭内で過ごしたい」が28.6%、「働きたい」が24.0%となっている。



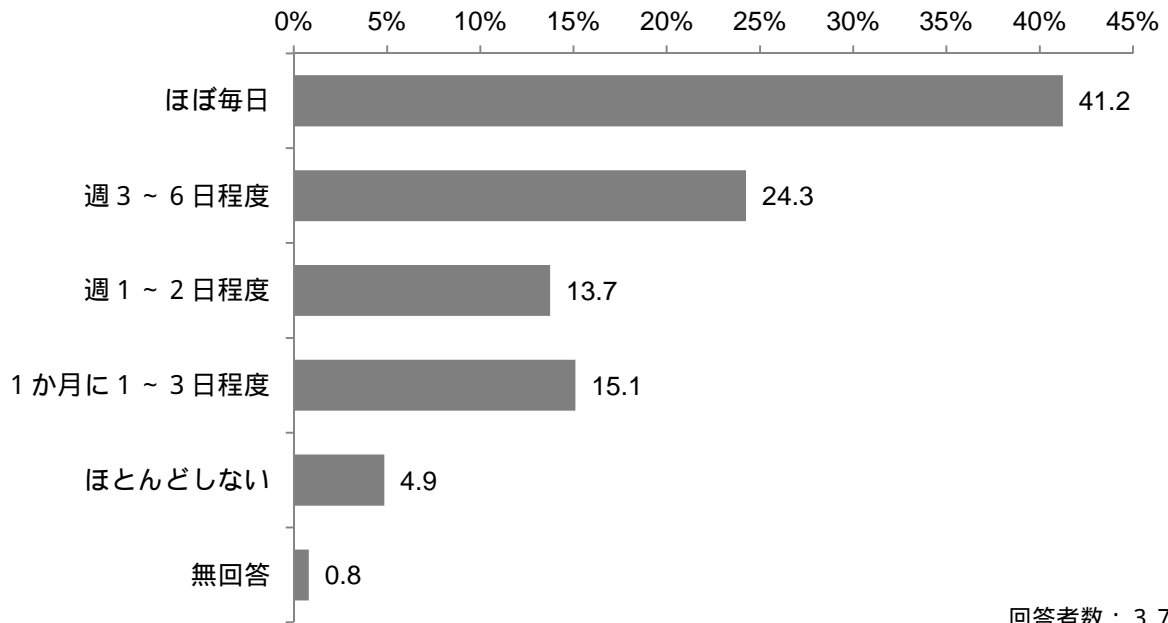
【問11の各回答における現在の日中の過ごし方(問10)の内訳】



(3) 外出について

問12 あなたは、ここ1年間、どの程度外出しましたか。(1つに)

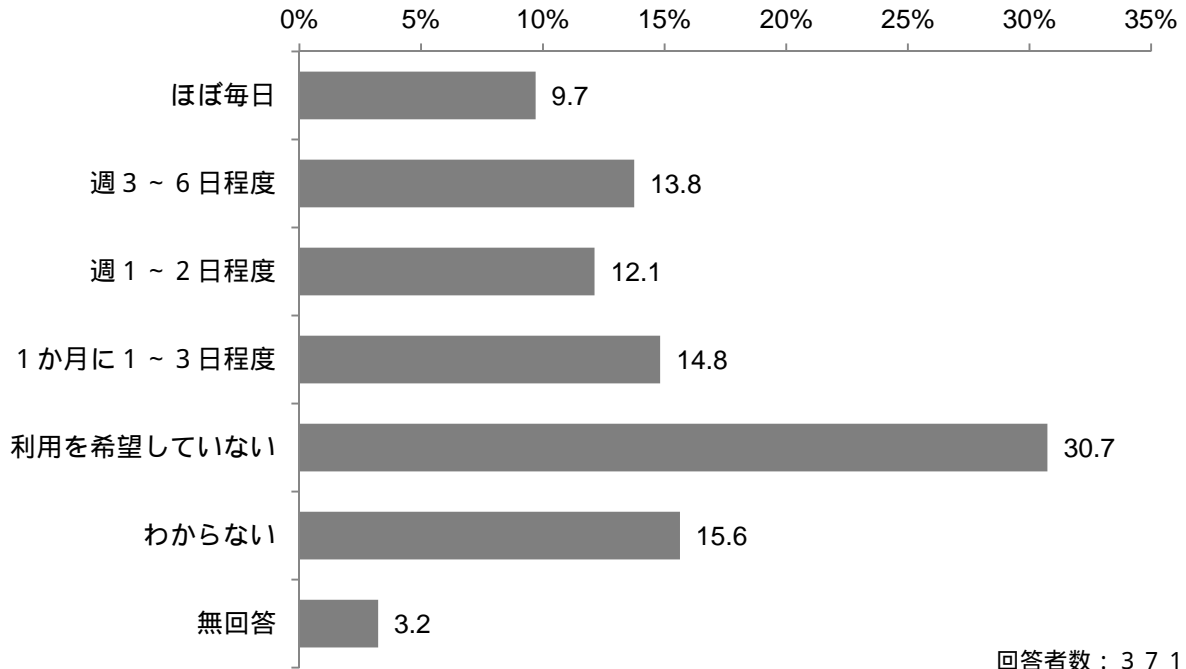
外出については、「ほぼ毎日」が41.2%、「週3～6日程度」が24.3%となっている。



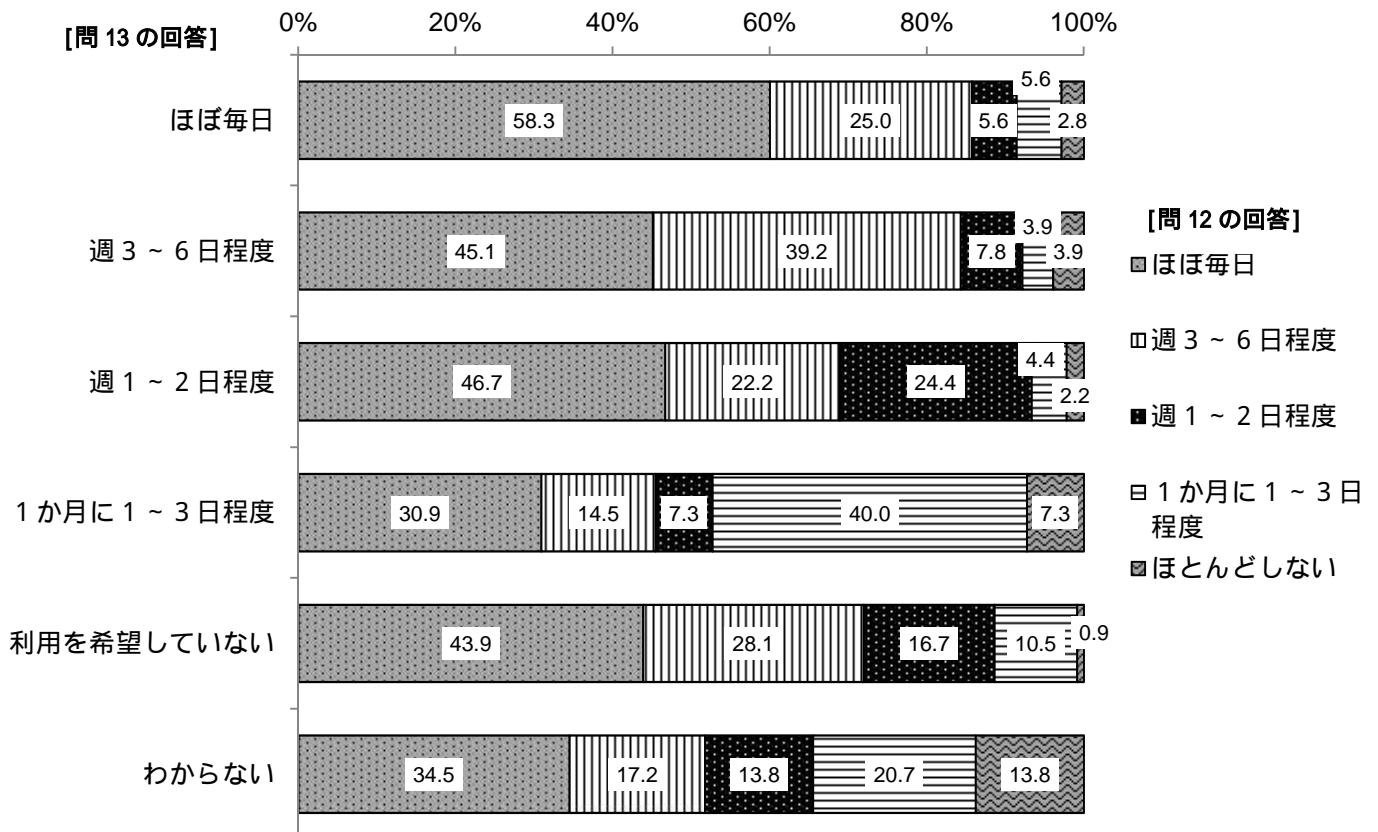
問 13 外出する際の支援として、福祉サービスをどの程度利用したいですか。

(1 つに)

外出する際の福祉サービスの利用希望については、「利用を希望していない」が 30.7%、「わからない」が 15.6%となっている。



【問 13 の回答における外出の頻度 (問 12) の内訳】



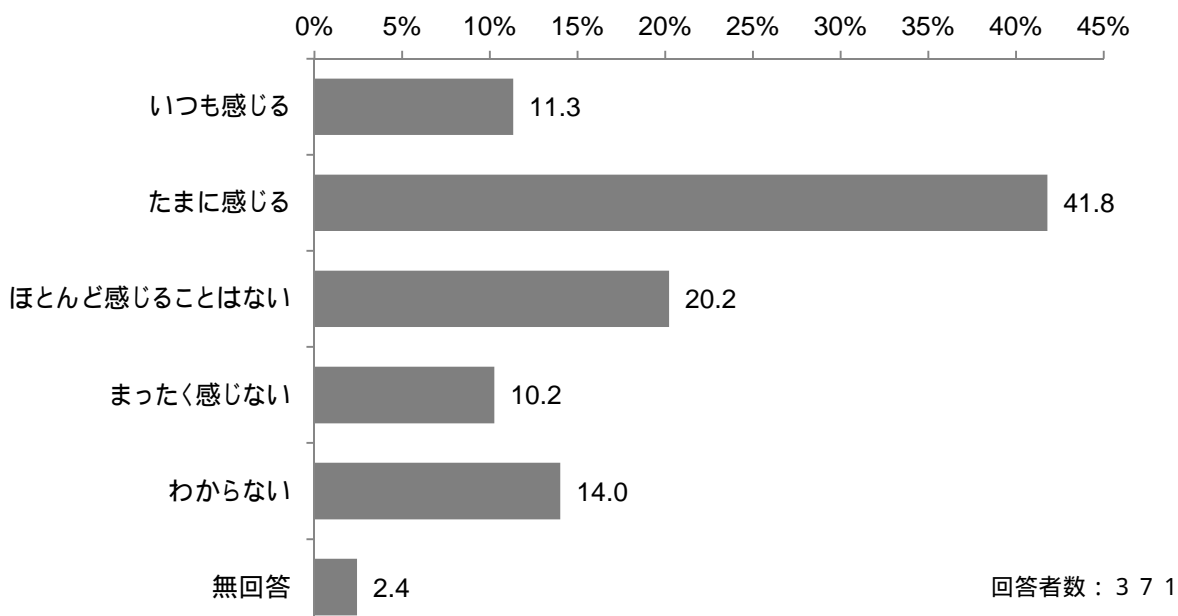
3、その他

(1) 差別・偏見、相談相手について

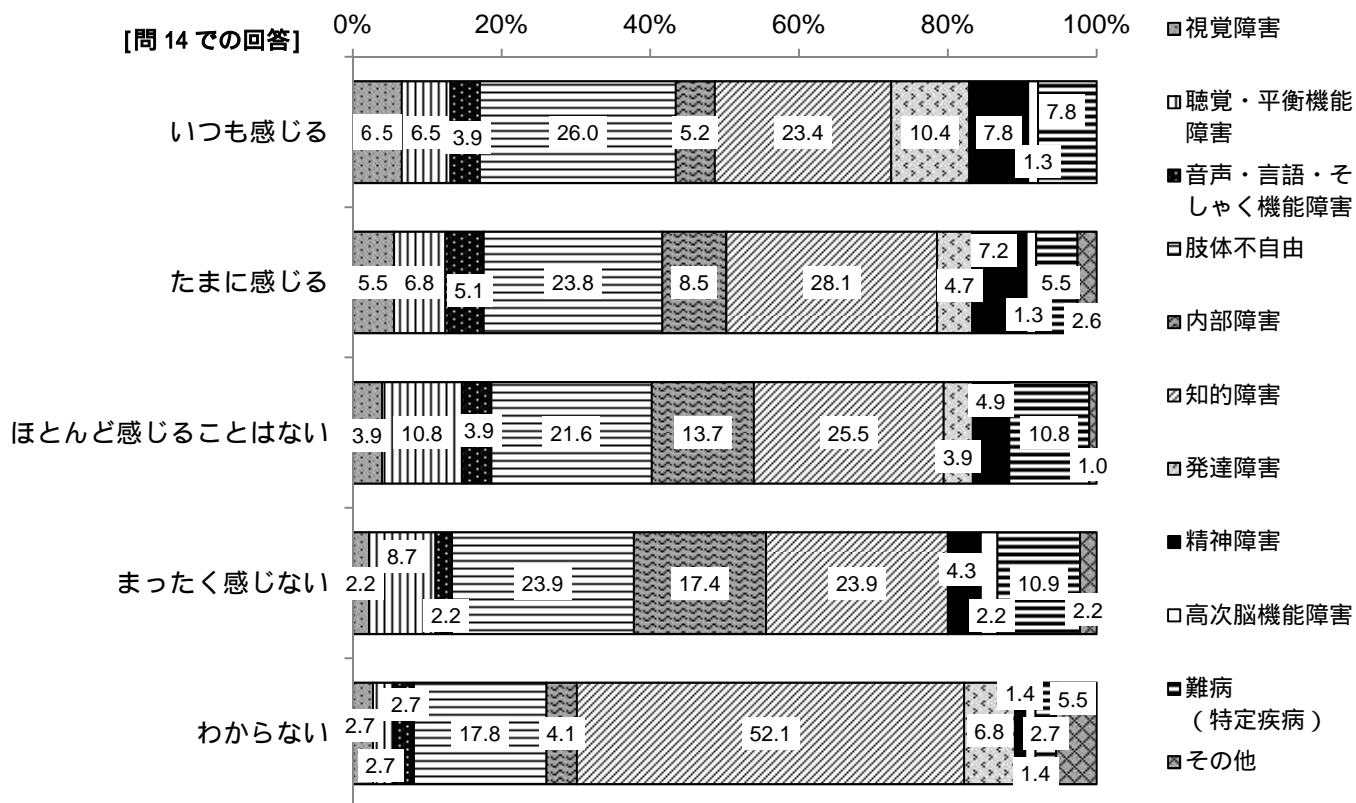
問 14 あなたは、障害を理由とする差別や偏見を感じたことがありますか。

(1つに)

障害を理由とする差別や偏見を感じた経験については、「たまに感じる」が41.8%、「ほとんど感じることはない」が20.2%となっている。



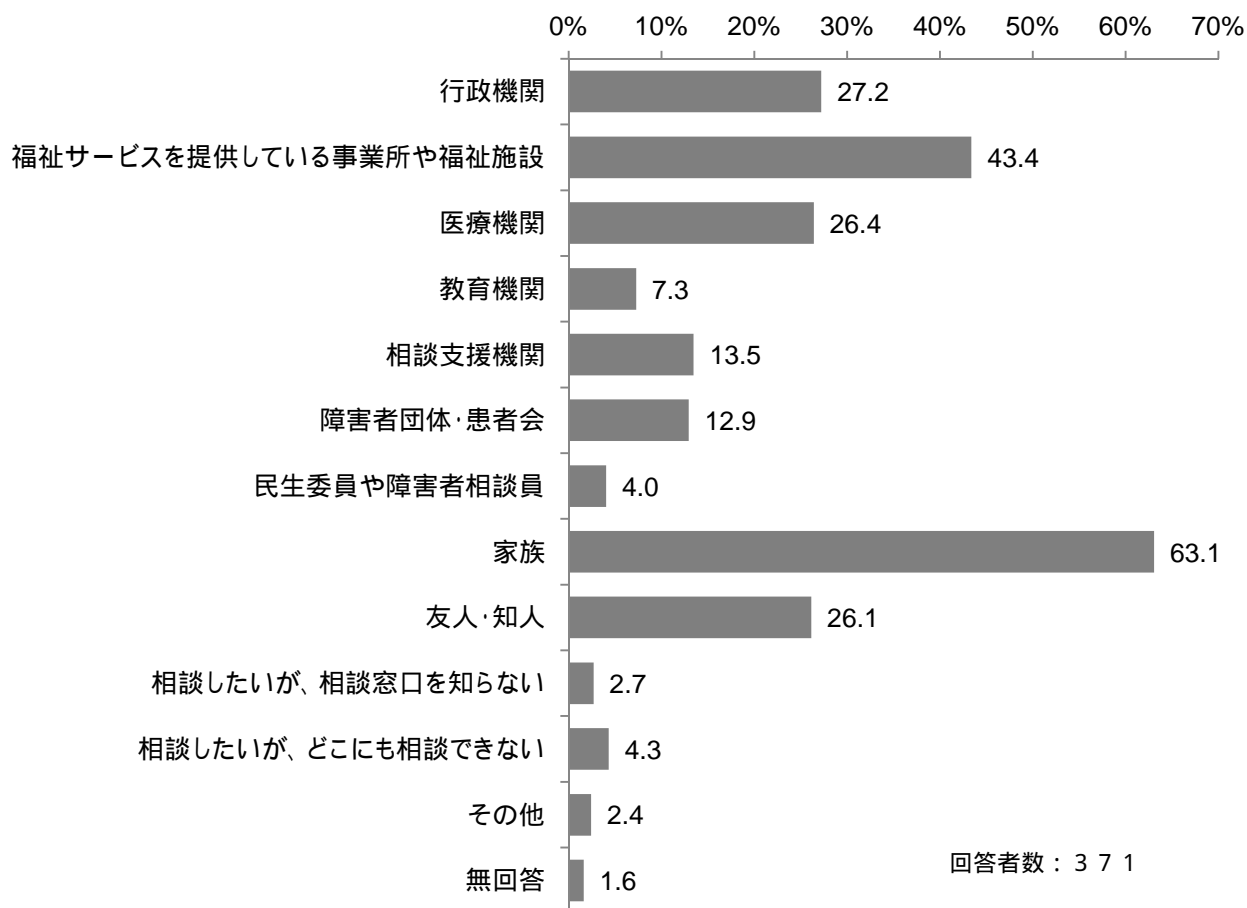
【問 14 の回答のうち、障害種別の内訳】



問 15 あなたは困ったことがあった時、どこ（だれ）に相談しますか。

（あてはまるものすべてに ）

相談相手については、「家族」が63.1%、「福祉サービスを提供している事業所や福祉施設」43.4%となっている。



行政機関やサービス事業者などには相談せず、家族や知人に相談する、または相談しないなどの回答数は121、回答者数は104になっている。

【参考】行政機関やサービス事業者など以外の相談先回答数(複数回答)

家族	74
友人・知人	26
相談したいが、相談窓口を知らない	5
相談したいが、どこにも相談できない	7
その他	3
無回答	6
回答数 合計	121

回答者数：104

(2) 障害者福祉サービスへの意見、要望及び生活上の喜び、悩みについて

問 16 障害者福祉サービスへのご意見、ご要望やあなたの生活上の喜び、悩みなど、何でも結構ですのでご自由にお書きください。

- ・ 障害者福祉サービスへのご意見・ご要望
- ・ 生活上の喜びなど
- ・ 悩みや不安など
- ・ その他

分類・要約して記載

【障害者福祉サービスへのご意見・ご要望】 164 件より抜粋

< 施策について >

- 更なる福祉の充実を願う。利用料の負担が増えないことを願う。
- 区内に入所施設を作してほしい。入所施設で親元を離れて自立するための練習ができるといい。入所施設で落ち着いたらグループホームに移り仲間と暮らしたい。生まれ育った江戸川区からあまりにも遠い施設では困る。時々は父母・兄弟と会いたい。
- 体験型の入所施設が遠くないところにほしい。親子で同じ施設に入りたい。
- 障害者のできることは些細なことかもしれないがゼロではない。その些細なことでも活かせる取組みをしてほしい。
- サービスの時間数を増やしてほしい。
- 支給を月単位ではなく、年単位として、利用者が本当に必要な使い方ができるようにしてほしい。
- 障害や生活スタイルに合わせた支給時間を選べるようにしてほしい。
- 24 時間ヘルパー派遣を認めてほしい。重度訪問介護の時間数が他区より少ないので時間数増加の要望に寛容になってほしい。家族が介護するのが当たり前という概念は取り除き、これからの福祉サービスの在り方を模索してほしい。
- 親が休みのない日々を過ごしている。社会性をつけるため、居宅身体介護の時間を増やしてほしい。
- 発作時は歩くことができずタクシーを利用することになり、病院までのタクシー代は大きな出費である。タクシー券の増額を切に願う。
- ショートステイの施設が少なく、予約も取りづらいので本当に必要なときに利用できない。
- 緊急一時保護のできる短期入所施設を増やしてほしい。
- 障害者福祉センターのような相談、スポーツ等余暇活動ができる施設がほしい。
- 区内に入院設備がついた精神病院を作してほしい。精神障害者に合った時間で利用できるデイケアを作してほしい。
- デイサービスの土日対応を充実してほしい。学校休日時に通所施設や短時間移動支援サービスを選択できたら効果的に感じる。

- 内部障害の専門的なりハビリを受けられる施設を希望する。
- 在宅生活を送りたい。透析患者向けの入所施設がほしい。
- 障害者が暮らしやすく働きやすい世の中にしてほしい。
- 障害のない人との平等と、そのために必要な合理的配慮と社会的障壁の除去をよく理解した支給決定や相談対応、自立支援協議会の運営、障害者計画・障害福祉計画等の策定をしてほしい。

<福祉サービスについて>

- ヘルパーとの外出を楽しんでいる。通所施設では家でできない事をやらせてもらい、楽しく通っている。
- 通所施設では職員が一生懸命尽くしてくれるが、人員が少ない。人員を増やし、手当を多くしてください。
- 移動支援のヘルパーが不足して、利用ができない日がある。
- 通院、外出、入浴でサービスを受けているが大変助かっている。小さい頃は必要なかったが、今は体重が重くなり福祉サービスがないとやっていけない。今後もサービスを選びながら、親子共々人生を充実させていきたい。
- 福祉サービスに十分満足している。
- 利用している事業所が良く、職員に感謝している。
- 障害者福祉課の窓口や電話で聞くと、障害福祉サービスを教えてくれ感謝している。
- 必要な時、いつでも相談できるので安心している。
- 困ったときにいつでも相談できる窓口があり安心。

<自立について>

- 体が動くうちはできる限り自分で動いて生活していきたい。

<将来について>

- 老後、生活していく上で一番の障害は、補装具の交換が困難になり在宅生活が難しくなること。介護申請時に補装具交換ができる人材が要望できれば安心。
- 今は福祉サービスが行き届いているが、今後具合が悪くなった時が心配。

<親亡き後について>

- 入浴はヘルパーがやってくれるが、24時間つきっきりで、食事介助、着替え、排せつをすべて母親がやっている。たまには支援ハウスを使いたい医療行為が必要なため難しい。親も年をとり、ヘルパーも支給時間も足りない。誰がどうやって生活を支えてくれるのか。

<グループホームについて>

- グループホームの体験型が少ない。子どもの自立のためにも体験年数を決めないで長い目でみてほしい。

<重度障害について>

- 障害が重いのでサービスの受け入れ先が少ない。今利用しているところを大事にしていきたい。
- 重度心身障害者のショートステイの受け入れが少ない。
- 重度訪問介護を24時間にしてほしい。
- 重度身体障害者グループホームがほしい。

<就労支援について>

- 就労継続支援B型事業所で色々な仕事ができるようになってほしい。
- 障害者の働ける場がほしい。
- 就労継続支援B型事業所の利用を今は考えているが、数が少なすぎる。都の最低賃金と同じ給料がほしい。

<放課後等デイサービスについて>

- 放課後等デイサービスを利用している。ここ数年で急激に増えた事業所の質の見直し、チェックが必要だと思う。

<障害理解について>

- 障害があることで我慢しなくてはいけないのだ、と感じてしまう。
- 疎外感を感じる。
- スタッフは、障害がある方だからといって注意すべきところをしなかつたりと甘くみがち。障害のある方がきちんと自立できるように支援してほしい。

<情報提供について>

- 福祉サービスの情報が平等に伝わるようにしてほしい。ケアプラン、アセスメント、モニタリング、認定調査への関わりを強化してほしい。医療、行政、支援者、当事者間の連携をリードし、強化してほしい。
- 積極的に障害に苦しむ方に関わってほしい。とことん調べないと受けられないサービスが多すぎる。
- 江戸川区は障害者が暮らすにはよい環境。窓口に行った際、個別の障害に対して使えるサービスを細かく説明してほしい。
- サービスなどを分かりやすく障害者の目線で丁寧に知らせてほしい。聞かなければ教えてくれない。障害者は、障害と心の病が必ず一緒という事を頭に入れておいてほしい。

- 書類などの説明をゆっくりわかるまで、丁寧に説明してほしい。
- 障害者福祉課に専門の人を配置してほしい。窓口を一本化してほしい。障害が分かった時の本人と家族をフォローするシステムをつくってほしい。施設、グループホーム、ひとり暮らしなど選択肢を増やすとよい。施設にオンブズマンを派遣。質のよいヘルパー、相談員を増やしてほしい。
- 多様なサービスがあり、サービスの内容が見えない、分かりにくい。
- 実際の生活をイメージして相談にのっていただけるとありがたい。色々なタイプの障害があるので、個人差を理解していただきたい。
- 手続等をもう少し簡略化してほしい。
- 必要なときにどこへ相談したらいいのかわからない。心の支えになってほしい。
- 区民ニュースに手話通訳（ワイプ）をつけてほしい。緊急無線に文字放送を加えてほしい。
- 手話通訳がないとき、音声通訳アプリなど用意してほしい。

<施設設備について>

- 病院等で車椅子の駐車スペースが少なく、入れないことがある。

【生活上の喜びなど】 170件より抜粋

<施策について>

- 区の対策に不自由は無い。
- 減額や割引などの恩恵。
- 福祉がとてもきめ細やかで助かっている。

<地域生活について>

- 小さい頃から育った江戸川区で暮らせ、人との交流が楽しい。この生活を維持していきたい。
- 先行きの不安が多い中、人の親切や言葉に感謝している。
- 近所の方によく声をかけてもらえること。

<外出について>

- 車椅子だが最近バス等の利用も皆さんの協力でスムーズに乗れてありがたい。親と一緒に散歩や外出をして安心している。
- 外出できる喜びがある。
- バリアフリー、ユニバーサルデザインの設備・環境が新設・改設されて、電動車椅子でのアクセスが可能になり、社会参加可能な環境が増えたこと。
- 親と出かける際、ヘルパーが参加してくれるだけで行動範囲が広がり、様々な体験ができ楽しみが増える。色々な事を体験して好きな事・好きな人を増やしていけるとよ

いと思う。

- ヘルパーと社会参加すること。

<通所について>

- 自分にできる作業をする達成感、充実感を得ること。休日に外出をして楽しむこと。
- 平日は通所し、軽作業やレクリエーションに参加し充実している。休日はヘルパーに同行して頂き、好きな場所や行ってみたい場所へ外出し、色々な体験をしている。
- 通所施設に毎日通えることがうれしい。
- 作業所でのちぎり絵作成が新聞で紹介され、ハガキやカレンダーになってうれしい。

<就労について>

- 商品が売れるとうれしい。
- 作業でいただいた工賃で買い物、映画等を楽しんだり、兄弟の子どもにプレゼントしたり、遊んだりすることが楽しい。
- 作業所で働いて工賃をもらえるのがうれしい。毎日通っているが月3,000円以下が多い。

<コミュニケーションについて>

- チャレンジをして達成感を感じる時。大好きな人が増えていく事。自分の気持ちが相手に伝わったと感じ、相手が受け止めてくれた時。美味しいものを食べて、美味しさを誰かと共有できた時。
- 学校で先生や友人と楽しい・うれしいを共有できたとき。家族と楽しい新鮮な体験ができたとき。自分の気持ちを伝えられ、相手が受け止めてくれたとき。
- 対面朗読はありがたい。

<仲間について>

- 就労継続支援B型事業所に通所しているので、お友達が沢山いて楽しい。また、連休に家族と温泉に行くのがうれしい。学校時代の友達に会えるので各施設のおまつりをとても楽しみにしている。
- グループホームで生活しているので、友達がいて楽しい。友達と一緒に出掛けることができうれしい。
- 家族や支えてくれる方、仲間と共に季節の移り変わりを感じながら、日々穏やかに健やかに過ごしていけること。
- 毎日通うところがあり、友達と一緒に過ごせてとても充実している。家族との食事や外出がうれしい。
- 小学校から地域の学校に通い、近隣に友人がたくさんできた。その方々に声かけをしてもらい支えられて生活している。大学まで進学し、自分の好きな勉強をして社会に参加できることは非常に楽しく、大きな喜びを感じる。東京パラリンピックなど障害

者の活躍の場が増える中、自分の個性を生かした活動を行いたい。

- 今を応援してくれる人がいること。同じような状態の人と時間を共有すること。家族や他の人と旅行したりすることが喜び。

<健康について>

- いつも健康でいられ、何を食べてもおいしい。
- 歩行に不自由があるが自分の足で歩けることが一番楽しい。

<その他>

- 趣味に夢中になっている時。
- 自分で何とかやれることが喜び。
- 自由な行動ができないので喜びは無い。ただ頑張っている。
- 障害者に喜びなどない。不便な事や大変な事が多すぎて時間が必要。外出もままならないので苦痛である。夢も希望もなくなり毎日を送っているだけ。
- 一般の人達と同じです。

【悩みや不安など】 197件より抜粋

<施策について>

- 福祉サービスの予算削減、サービスの制限など、将来への不安がある。

<福祉サービスについて>

- 同僚に頼むのは、恥ずかしいので職場でもヘルパーを使いたい。
- 家族の介護による心身の疲弊。ヘルパー事業所が見つからない。介護の人材確保が難しい事。
- 手話通訳者の性別を選べると助かる。
- 24時間介護をできるようにしてほしい。65歳過ぎて介護保険になってもひとりで暮らせるようにしてほしい。院内介助をしてほしい。電動車いすで入店できる店を増やしてほしい。
- ヘルパーを利用した際、依頼どおりに家事ができなかった。頼む度に説明するのがつらく、どうしてよいかわからない。

<将来について>

- 将来病気が進行し、生活に支障が出てきた場合の対応が不安。
- 高齢になり病気への不安が増している。ヘルパー不足で、入院時生きていけるか不安だし、外出等がめったにできないのが辛い。孤独死の方向に向かっている気がする。
- 障害もあり、高齢で、目に見えて症状が重くなってきて不安。
- 昔できていたことが徐々にできなくなるのが不安。

- 先が見えてこない。
- 将来に希望が持てない。一日一日を大切にしている。
- 親が病気等になった時、どうすればよいか分からず不安。
- このままの生活を続けてよいのか、自立してひとり暮らしを始めたらいいのか悩む。
- 胃ろうを造設したため、短期入所するところがない。介助者が病気、入院することになった場合どうしたらよいか不安。10年間一日も入所したことがない。介助者が無理をしている。
- ヘルパーの時間数が足りない事。家族に頼らず自分らしく生活していきたい。

<親亡き後について>

- 親が年をとると本人の行動範囲が狭くなってしまわないか。今までできた事ができなくなってしまわないか心配。また将来の生活の仕方をどのようにしたらよいか、今の生活を維持できるのか心配。
- 親亡き後が不安。地域で安心して生活できるようグループホーム等の整備を。区も具体的な情報を聞かせてほしい。
- 親といつかは別れなければいけないが、生きがいをもって暮らしていく環境がずっと得られるかが不安。
- 親亡き後の生活設計をどのようにしてよいかわからない。
- 親亡き後、区内で最後まで暮らせる場所（入所施設、生活寮等）を作してほしい。
- 親亡き後が不安。親亡き後はどのような対策があるのか発信してくれると親の不安は軽減される。

<グループホームについて>

- 親が入院した時など何かあった時にすぐに受け入れてもらえないのが不安。今の年金でグループホームに入れるのか心配。
- 自分の障害に適したグループホームや施設が少ないのが不安。

<卒業後について>

- 大学卒業後、何らかの社会参加ができるか、また自立した生活が送れるようになるか不安。リハビリは続けているが、身体機能が低下しているように感じる。今できることを精一杯、頑張り不安を取り払いたい。
- 卒業後に不安がある。進学、仕事の選択肢の幅が広がるとよい。
- 特別支援学校でもキャリア教育に注力されていて、重度の支援が十分とはいえ学校生活が心配。卒業後、毎日通える日中活動の場があるのか、グループホームや入所施設に入ることができるのか。心配はつきない。

<就労について>

- 就職をしたいが、一步をふみだせない。

- 自分のやりたい仕事に就けない。

<災害時について>

- ひとりで自由な外出ができないのがつらい。災害発生時にどのような対策をして貰えるのかわからず不安。近所とのつながりもなく、ひとりで取り残されるのかと思うと恐怖である。
- ひとり暮らしで高齢や病気した時が不安。災害時に情報がわからないことが不安。
- 災害時における避難先での補装具と資材の補給について不安がある。自分で2か月分は準備しているが持ち出せるかが心配。
- 災害時に負傷した場合、補装具の取り付けの介護者がいないことが心配。家族でも介護はできない。

<経済について>

- 難病をふたつ抱え多額の医療費になる。今後本人の収入だけでは無理である。

<結婚について>

- 結婚する時に自分の障害を相手やその家族に受け入れてもらえるか心配。

<健康について>

- 毎日がジェットコースターみたいな体調なので今日良くても明日のことがわからない。約束してもドタキャンになる可能性があるので、約束ができない。何かしようとしても不安、また何かした後の体調にも不安がある。
- 今後、今以上に体がいうことをきかなくなる不安がある。
- 沢山病気を抱えての生活で、再発入院したりするが、気持ちは若く周りからは病気しているなんて信じられないと言われる。本人は相当辛い、そのような見方をしてくれていると思うとうれしい。

<コミュニケーションについて>

- 重度の知的障害者は言葉での伝達が難しいので、困ったことや嫌な気持ちが伝えられずイライラしてしまう。時として家族に怒りが向かってしまう。本当に困っている人は自分から声をあげられない人達だと思う。家族や支援者からもっと綿密に話を聞き「障害福祉計画」を作成してほしい。
- 人間関係に自信がもてない。未来に不安。仲のよい友達ができない。
- 自分の行動で他の利用者を不快にさせてしまうことがある。

<障害理解について>

- 中学校に入るといじめがある。軽度の知的障害を理解してもらうのは難しく、とても苦しんだ。

- 地域の人や友達、学校の先生にもっと自分のことを理解してほしい。
- 相模原障害者殺傷事件のようなことがおきてしまう土壌がまだまだ社会にあること。行政職員、相談支援専門員、ケアマネージャー、障害当事者に障害者権利条約や総合支援法等の目的や基本理念がきちんと理解されていないと感じる。情報公開を制限する条例が可決したこと。

< 重度障害について >

- 将来のこと。重度の医療的ケアを必要とする施設の不足を感じる。

< 情報提供について >

- 難病についての専門的なアドバイスや情報を教えてほしい。
- 福祉サービスの情報が少ない。SNS 等を使って情報発信してほしい。

< その他 >

- ひとり暮らしのため具合の悪い時が心配。入院した時頼る人がおらず心配した。
- 後ろから車がくるので、車道を自転車を通るのが怖い。無灯火の自転車に気が付かない。電車内のアナウンスが聞こえない。駅の場所がわからない。
- 体に合った車椅子がなく困っている。

【その他】 70 件より抜粋

< 施策について >

- 気軽に相談できる施設が近くにほしい。みんなで支えあう環境を作してほしい。
- 子が障害者の場合、家族が力を合わせて介護しようとするが、極限まで努力する前に家族の心に沿ったサービスをしてほしい。周囲のサポート次第で障害者も社会の中で尊厳をもった生き方ができると思う。
- 江戸川区のサービスにとっても満足している。

< 福祉サービスについて >

- 区内の6つのエリアに手話通訳者がいれば助かる。予約なしでいつでも利用できると助かる。予約は時間がかかるし、遠くから来るのは大変。24時間、近くで、行ってすぐに頼めると助かる。
- ヘルパーの給料を上げてほしい。男性のヘルパーが少ない。

< 親亡き後について >

- 区に親亡き後の施設がない。生まれ育った江戸川区に住めるようにお願いしたい。

<学校について>

- 知的障害者対象の特別支援学校高等部就業技術科、職能開発科を区内につくってほしい。

<緊急時について>

- 急な困り事に、すぐに対応して貰えるサービスがあるとよい。「本当に困った時は誰かが来てくれる」と思うだけで安心につながると思う。

<障害理解について>

- 福祉を志す若者たちに障害について学習する研修等の機会を積極的に設けてほしい。これからの社会のためにも若い力を大切に育ててほしい。
- 自分や家族が他の人から嫌な目で見られるのがつらい。バス停によっては車いすで乗降できないところがあるので、先のバス停まで歩いているが、親が高齢になったときが心配。
- パラリンピックで身体障害者の理解は深まってきているが、知的、内部障害者の理解はまだ少ないと思う。
- 世間の障害者に対する理解が薄い。タクシーに乗車拒否された。
- 障害者に対して理解があり、子育てのサポートも十分な世の中になってほしい。

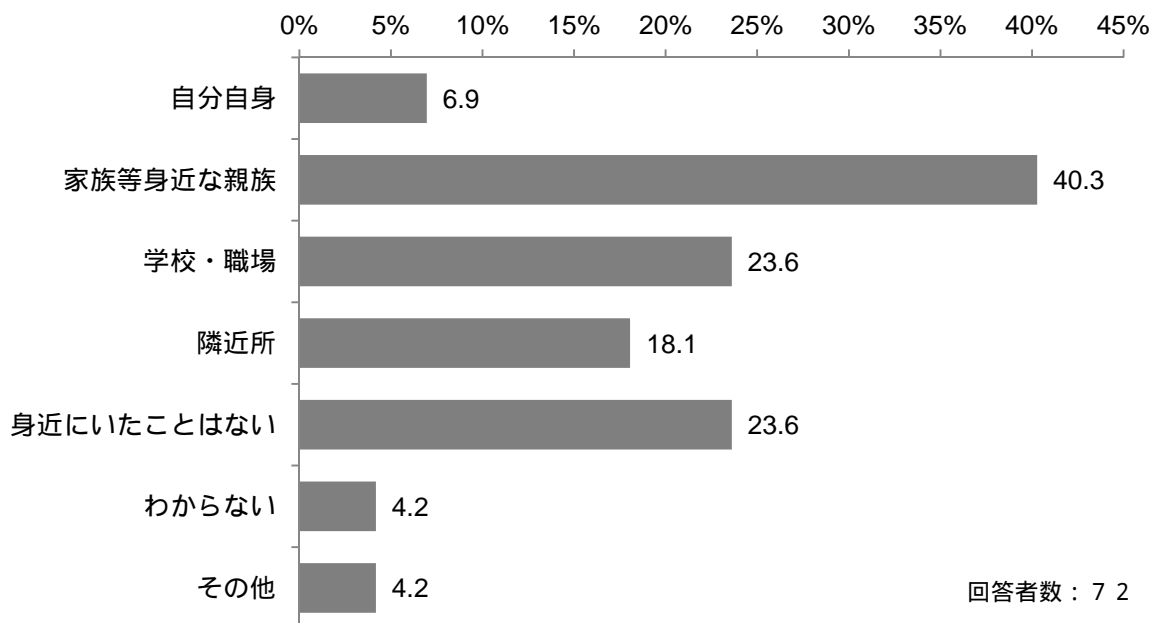
<その他>

- 障害者自身もひとり暮らしをする前に金銭管理、他人との関わり方など勉強する場がほしい。作業所の収入だけではひとり暮らしできないので、暮らせるようにしてほしい。障害者がどうしたら働けるか考えるようなシステムがほしい。

第3章 アンケート調査結果

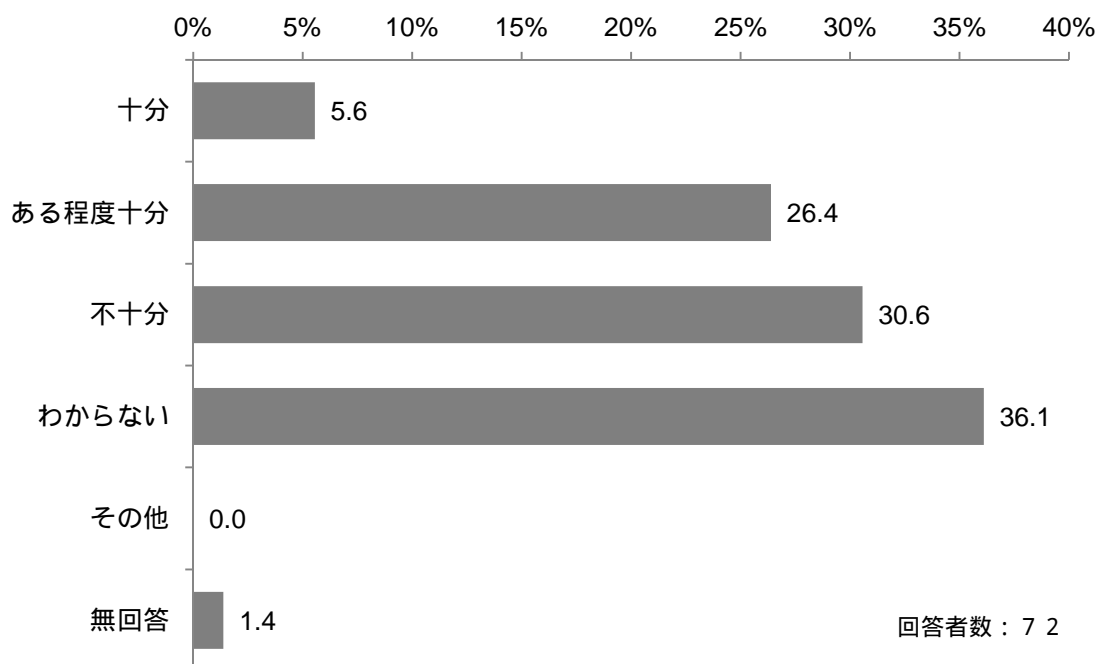
問1 あなたの身近に障害のある方がいますか、または、これまでいたことがありますか。(あてはまるものすべてに)

身近な障害のある方については、「家族等身近な親族」が40.3%、「学校・職場」と「身近にいたことはない」が共に23.6%となっている。



問2 あなたは、現在、何らかの日常生活における支援を必要としている方が、十分な障害福祉サービスを受けているとお考えですか。(1つに)

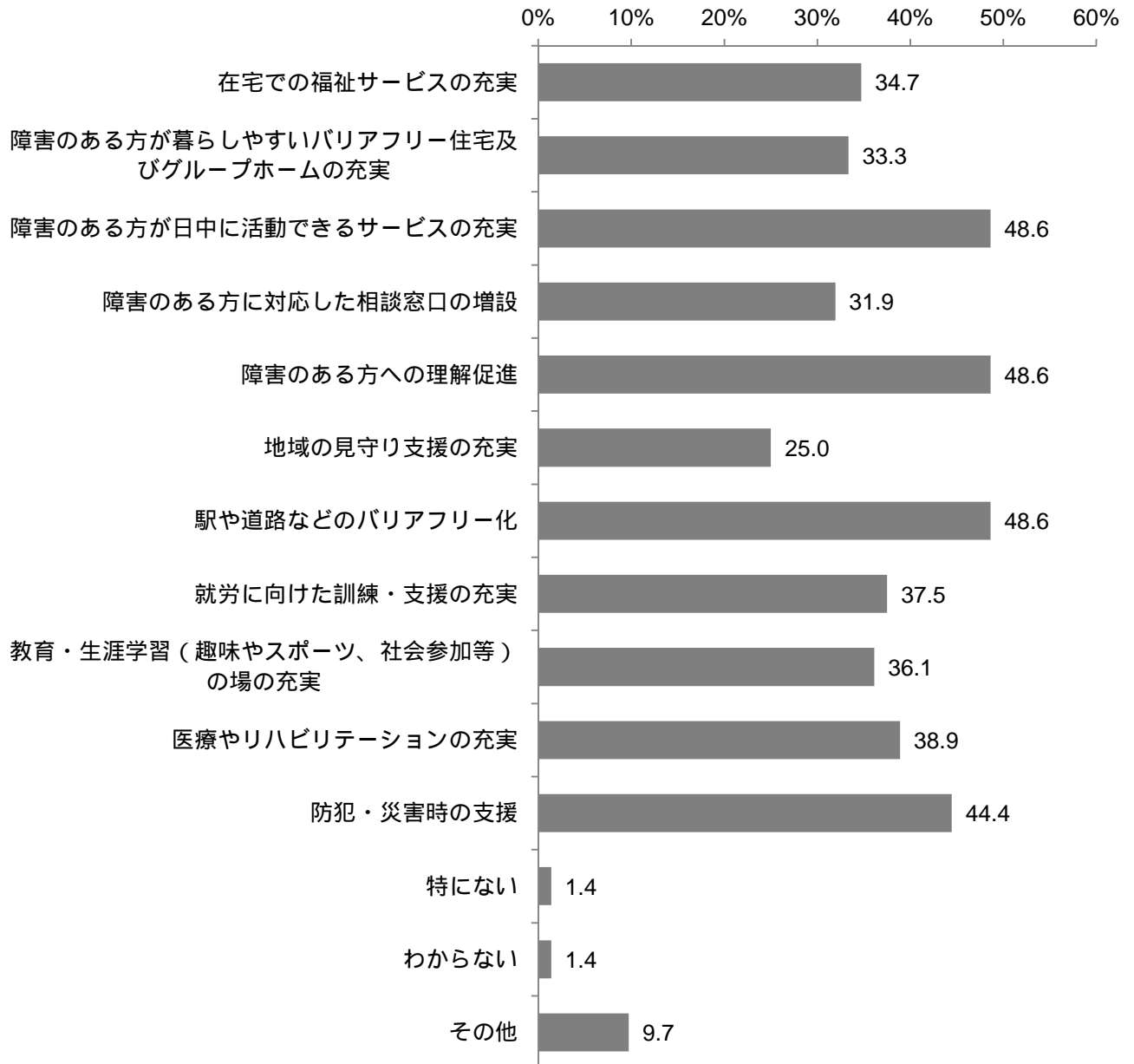
支援を必要としている方が、十分な障害福祉サービスを受けていることについて、「わからない」が36.1%、「不十分」が30.6%となっている。



問3 区では、障害のある方の地域生活をより良いものとしていくため、今後どのようなサービスや支援に力を入れていくべきだと思いますか。

(あてはまるものすべてに)

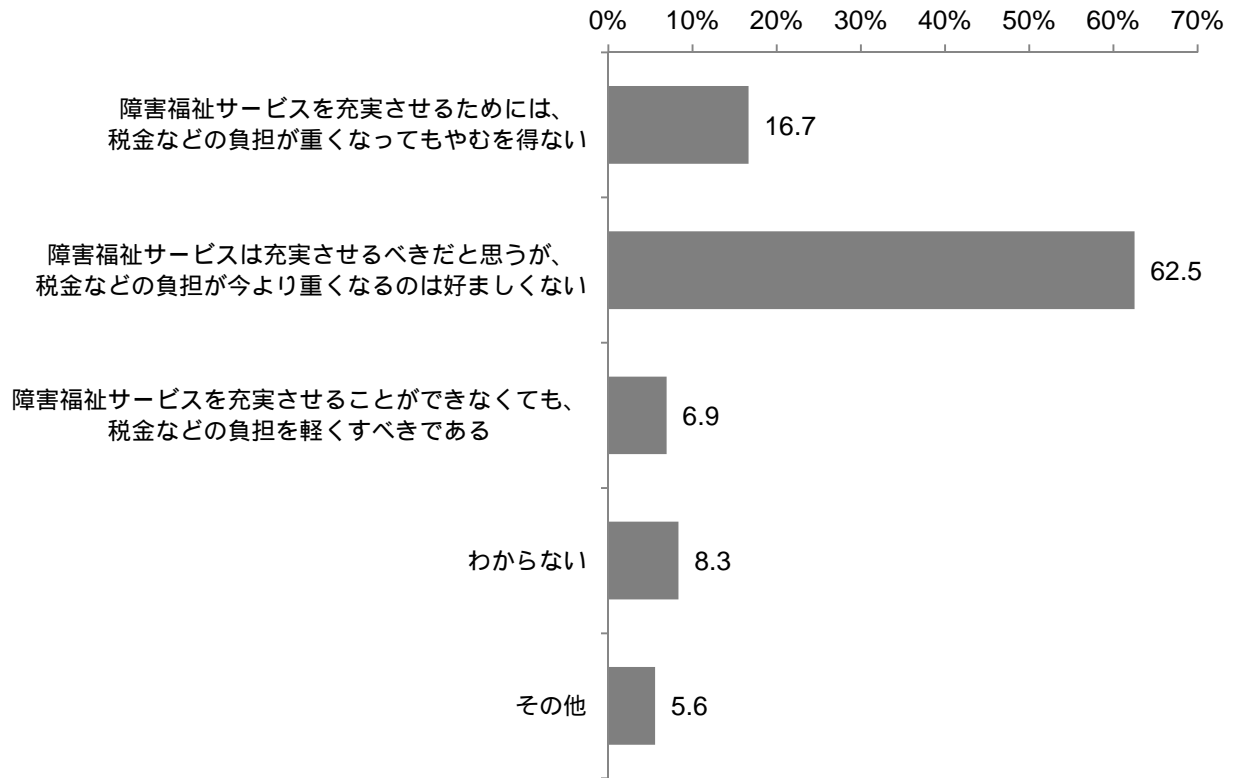
今後どのようなサービスや支援に力を入れていくべきかについては、「障害のある方が日中に活動できるサービスの充実」、「障害のある方への理解促進」、「駅や道路などのバリアフリー化」が共に48.6%となっている。



回答者数：72

問4 障害福祉サービスを充実させることと、その財源となる税金などの負担についてあなたの考えに最も近いのは次のどの意見ですか。(1つに)

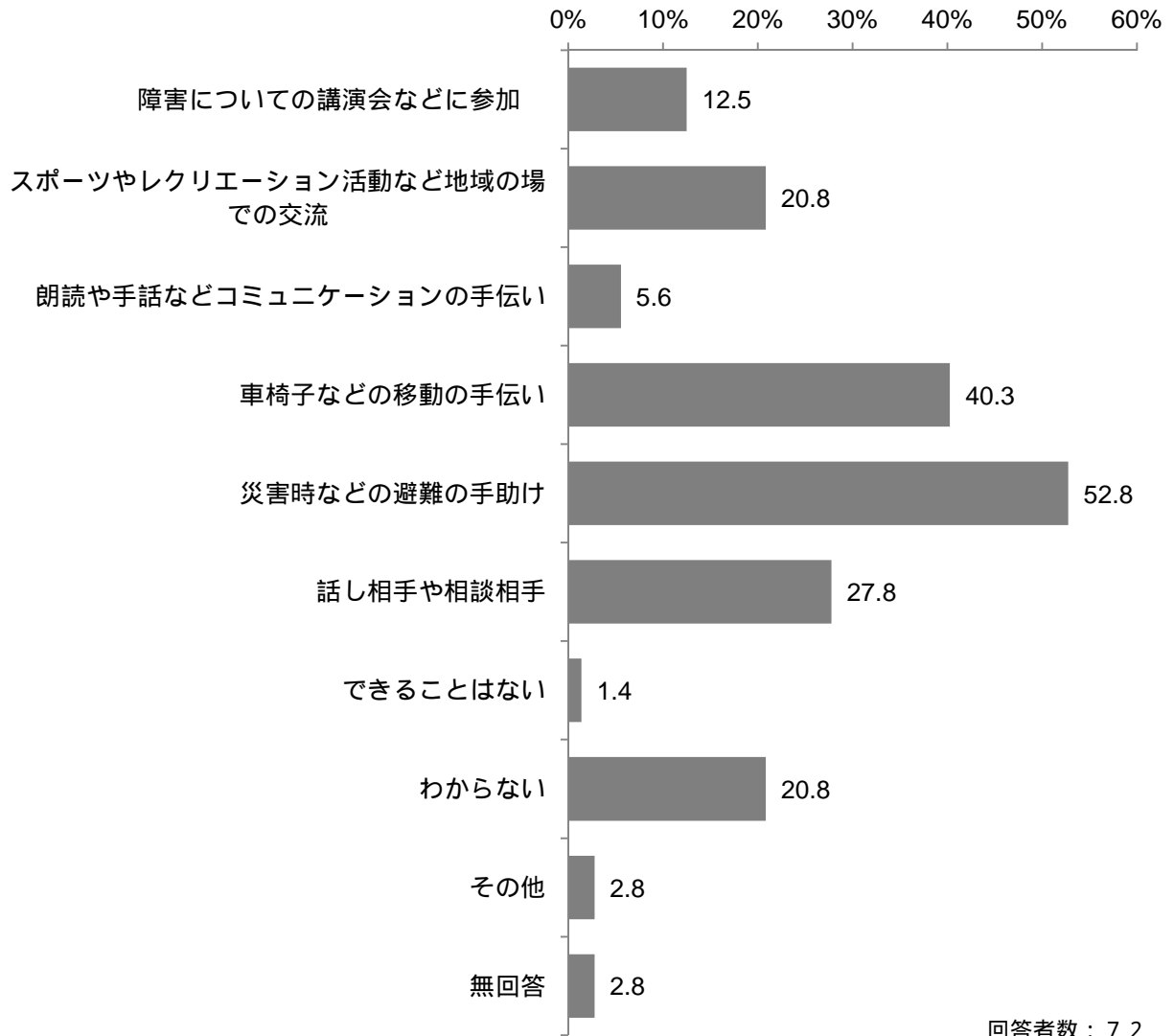
障害福祉サービスの税金負担については、「障害福祉サービスは充実させるべきだと思うが、税金などの負担が今より重くなるのは好ましくない」が62.5%となっている。



回答者数：72

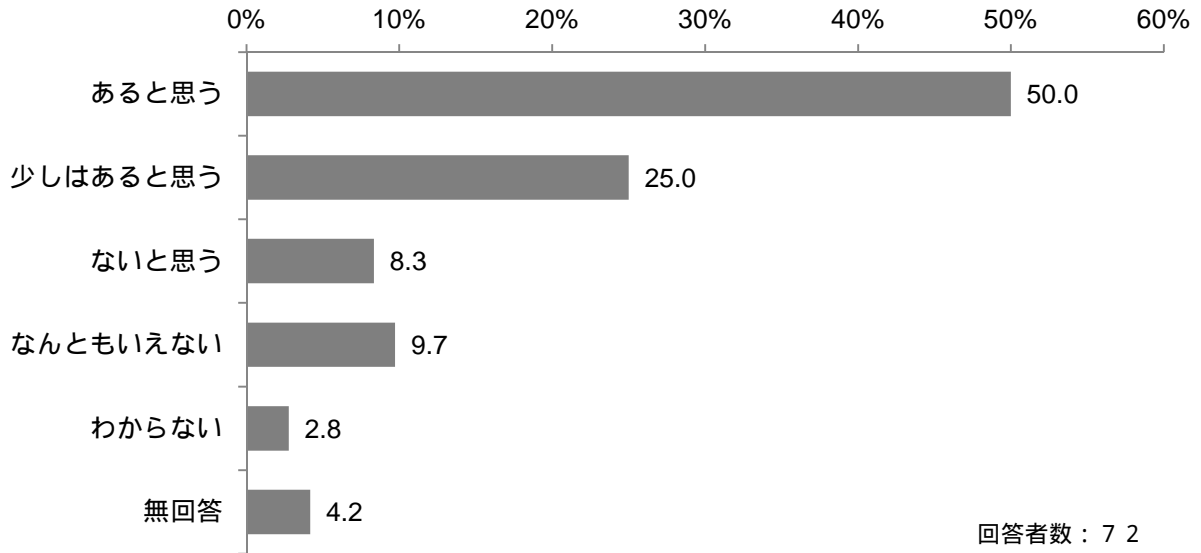
問5 あなたは障害のある方と同じ地域で共に生活していくために、どのようなことができると思いますか。（あてはまるものすべてに）

障害のある方と同じ地域で共に生活していくためにどのようなことができるかについては、「災害時などの避難の手助け」が52.8%、「車椅子などの移動の手伝い」が40.3%となっている。



問6 あなたは地域社会の中に障害のある方への差別・偏見、または配慮のなさがあると思いますか。(1つに)

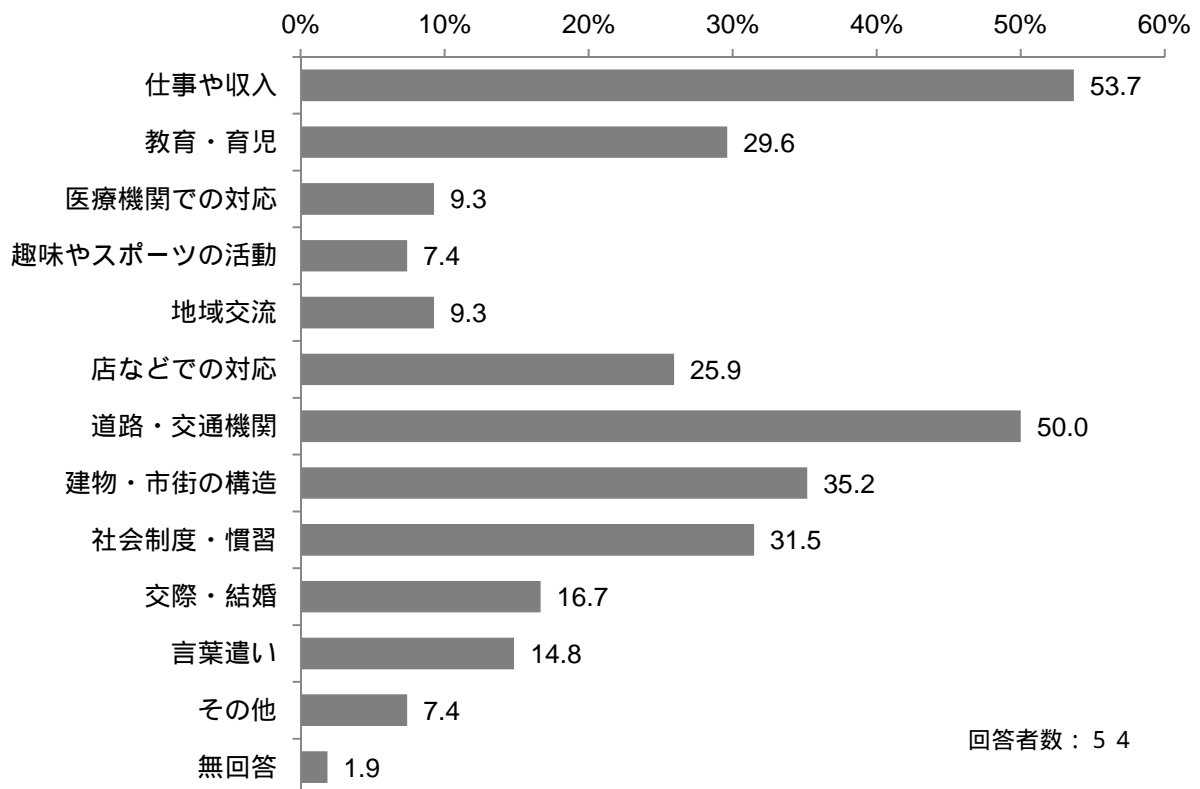
障害のある方への差別などがあると思うかについては、「あると思う」が50.0%となっている。



問6-1 前の問で、あなたはどのようなところに障害のある方への差別・偏見、または配慮のなさを感じますか。(あてはまるものすべてに)

前の問で「1」又は「2」にした方が回答

どのようなところに障害のある方への差別などを感じるかについては、「仕事や収入」が53.7%、「道路・交通機関」が50.0%となっている。



問7 障害者福祉施策についてご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

要約して記載

24件より抜粋

- 困っている人がいたら積極的に手を貸すようにしているが、周りの人は見て見ぬふり。もっとみんなで助けてあげられるようになるとよい。
- バリアフリーを謳っていても、お店の中はバリアフリーでもトイレまでバリアフリーになっていないところがある。
- よりよい地域社会を目指して頑張ってください。
- シルバー人材センター等でも働けるとよい。車いすの方も利用するトイレなどは実際に使用する人の意見も取り入れるとよい。
- 税金の負担はある程度仕方ないと思うが、福祉のための財源を確保する必要がある。
- 税金が公共事業だけでなく、福祉の面で有益に役立てばよいと思う。
- 障害のある方の中には見た目ではわからない、普段健常者と同じように生活されている方も多くいると思う。そのような方を含め人それぞれ色々な事があるということを考えながら生活する必要がある。
- 障害のある方にも謙虚な気持ちがあるとよいと思う。
- 安心できる居心地のよい場所、仕事、生活が必要だと思う。医療、役所、ケアサービス、ボランティアなど個別の支援でなく、連携した支援と専門的スタッフが一つになって、障害のある方がいろいろな人たちの支援を受ける体制ができるのを望む。
- 今まで障害のある方との接点が少なかった。接することが少ない分理解もない。共存する上では理解をし、身近な事としてとらえていかなければと思う。
- 目に見えない精神障害などの理解・対応の仕方、注意点など認識を深めてほしい。
- 心と心の交流が一番だと思うので形だけでなく、未長いアフターフォローを大切に。
- 外見でわからない障害のある方への理解、待遇の改善を希望する。
- 一般の人も参加しやすい環境づくりや理解しあえる場所など、交流の機会を増やすとよい。
- 表に見えない障害については公言してもらった方が心情を理解し、受け入れやすく、対応方法を考える余地ができる。恐れずに周囲に言える環境づくりも大切。
- 障害のある方と共生していくために小さい頃から交流をし、障害とは何か、どんな手助けができるのかを学び、壁をなくすことが必要。体育、音楽、工作、休み時間を一緒に過ごすことで差別偏見がなくなるのでは。障害者を守ることが壁を作っているのではないかと。一緒にいることで何が必要なのか見えてくると思う。
- 障害者が自立しやすい地域社会を望む。
- 現在、障害のある方がどのような支援を受けていて、今後どのような支援が必要とされているのかわからない。直接ご本人や家族に聞きにくい話。江戸川区は福祉が充実していると昔から聞くが、他と比べてどうなのか、よくわからない。

- 福祉関連の仕事をしている。理解をしていますが、自分自身まだまだと思うことが多い。小さい時からの教育が大事。
- 公共交通機関の優先席は、優先でなく専用にすべき。マナーのない人、心のない人が結構多い。

1、障害者（児）実態調査 調査票

**しょうがいしゃ じ じつたいちようさ
障害者（児）実態調査**

**きようりよく ねが
ご協力をお願いします**

区民の皆さまにおかれましては、日頃から区政にご協力をお願い申し上げます。

さて、この度、江戸川区では、第5期江戸川区障害福祉計画の策定に向け、実態調査を実施することになりました。

本調査にあたっては、区内にお住まいで障害等がある方の中から、無作為に抽出させていただきます。無記名で実施いたします。

調査結果はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。

また、江戸川区個人情報保護条例に基づき、秘密の保持には万全を尽くすとともに、調査の目的以外には使用いたしませんので、ご迷惑をおかけすることはありません。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成28年12月

江戸川区

【ご記入にあたってのお願い】

1. 調査には、調査の対象となる方（ご本人）がお答えください。ただし、ご本人が回答することが難しい場合、主に介助をなさっている方やご家族の方などが記入を手伝ってください。ご本人の意思表示が困難な場合は、ご本人の意向を汲みとって代わりに記入ができます。調査票の記入が難しい方でご希望があれば、区役所窓口や電話での個別の聴きとりも行ってあります。
2. 調査票中の「あなた」とは、調査の対象となる方のことをさします。
3. 調査票は、両面印刷となっております。裏面にも目を通しご回答ください。
4. 回答は、あてはまる番号に つけてください。質問ごとに（1つに ）（あてはまるものすべてに ）などの指示がありますので、それにしたがってご回答ください。
5. 質問の回答が「その他」である場合は、具体的な内容を（ ）内に記入してください。また、ご意見や数字などを直接記入いただく質問もあります。
6. この調査票の記入にあたっては、平成28年12月1日現在の状況でお答えください。
7. ご記入が済みましたら、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて、**平成29年1月13日（金）**までにお近くのポストにご投函ください。
8. 返信用封筒の裏に、差出人のご住所、お名前等を書く必要はありません。
9. 記入上の不明な点、調査についてのお問い合わせは下記までお願いします。

【お問い合わせ】 江戸川区役所福祉部 障害福祉課計画係
電話 03(5662)0044 / FAX 03(3656)5874

この調査記入方法についてご回答ください。（1つに ）

1. 本人がご自身で記入
2. 本人の意思を「代筆」で記入
3. 家族や介助者等が本人の意向を汲みとって代わりに記入

ご本人以外が回答を記入された場合、ご本人との関係について、あてはまる方に をしてください。

1. ご家族
2. その他（ ）

あなたのことについておたずねします

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに)

- 1. 男性
- 2. 女性

問2 あなたの年齢をお答えください。(数字を記入)

満()歳 (平成28年12月1日現在の年齢)

問3 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(1つに)

- 1. 自宅(賃貸を含む)
- 2. 障害者向け入所施設(グループホームに入居中の方は3に)
- 3. グループホーム等
- 4. その他()

問4 あなたは、どなたと一緒ににお住まいですか。(あてはまるものすべてに)

障害者向け入所施設やグループホーム等で暮らしている人は、回答する必要はありません

- 1. 夫婦で暮らしている
- 2. 親と暮らしている
- 3. 子と暮らしている
- 4. 兄弟姉妹と暮らしている
- 5. 一人で暮らしている
- 6. その他()

問5 あなたは今後、どのような暮らしをしたいと思っっていますか。(1つに)

- 1. 今までと同じように暮らしたい
- 2. 自宅で暮らしたい
- 3. グループホーム等で暮らしたい
- 4. 施設で暮らしたい
- 5. その他()
- 6. わからない

問6 あなたの障害は何ですか。(あてはまるものすべてに)

- 1. 視覚障害
- 2. 聴覚・平衡機能障害
- 3. 音声・言語・そしゃく機能障害
- 4. 肢体不自由(上肢・下肢・体幹・体幹・移動機能障害等)
- 5. 内部障害(心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう・直腸、小腸、免疫臓機能等)
- 6. 知的障害

7. 発達障害

8. 精神障害

9. 高次脳機能障害

10. 難病(特定疾病)

11. その他()

問7 あなたが現在お持ちの手帳の等級は何級または何度ですか。(あてはまるものすべてに)

- 1. 身体障害者手帳 (1級 2級 3級 4級 5級 6級)
- 2. 愛の手帳(療育手帳) (1度 2度 3度 4度)
- 3. 精神障害者保健福祉手帳 (1級 2級 3級)
- 4. 手帳は所持していない

日常生活の支援の状況についておたずねします

問8 自宅において食事や入浴等の日常生活上の支援のために福祉サービス(ホームヘルパー等)をどの程度利用していますか。(1つに)

- 1. 毎日
- 2. 週に3～6日程度
- 3. 週に1～2日程度
- 4. その他
- 5. 利用していない

問9 食事や入浴等の日常生活上の福祉サービス(ホームヘルパー等)をどの程度利用していますか。(1つに)

- 1. 毎日
- 2. 週に3～6日程度
- 3. 週に1～2日程度
- 4. 利用を希望していない
- 5. わからない

日中活動についておたずねします

問10 あなたは、日中はどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに)

- 1. 働いている(障害者就労支援施設で働いている方は2に)
- 2. 障害者(児)の通所施設に通っている
- 3. 病院などのデイケア、リハビリテーションを受けている
- 4. 学校・保育園・幼稚園に通っている
- 5. 家庭内で過ごしている
- 6. その他()

問11 今後、日中はどのように過ごしたいですか。(あてはまるものすべてに)

- 1. 働きたい(障害者就労支援施設で働きたい方は2に)
- 2. 障害者(児)の通所施設に通いたい
- 3. 病院などのデイケア、リハビリテーションを利用したい
- 4. 学校・保育園・幼稚園に通いたい
- 5. 家庭内で過ごしたい
- 6. その他()

外出の状況についておたずねします

問12 あなたは、ここ1年間、どの程度外出しましたか。(1つに)

- 1. ほぼ毎日
- 2. 週3～6日程度
- 3. 週1～2日程度
- 4. 1か月に1～3日程度
- 5. ほとんどしない

問13 外出する際の支援として、福祉サービスをどの程度利用したいですか。(1つに)

福祉サービスは、移動支援、行動援護、同行援護、重度訪問介護等をいいます。

- 1. ほぼ毎日
- 2. 週3～6日程度
- 3. 週1～2日程度
- 4. 1か月に1～3日程度
- 5. 利用を希望していない
- 6. わからない

その他についておたずねします

問14 あなたは、障害を理由とする差別や偏見を感じたことがありますか。(1つに)

1. いつも感じる
2. たまに感じる
3. ほとんど感じることはない
4. まったく感じない
5. わからない

問15 あなたは困ったことがあった時、どこ(だれ)に相談しますか。(あてはまるものすべてに)

1. 行政機関(市区町村の障害福祉担当窓口、保健所(健康サポートセンター)等)
2. 福祉サービスを提供している事業所(相談支援事業所を含む)や福祉施設
3. 医療機関
4. 教育機関(学校等)
5. 相談支援機関(障害者支援ハウス、発達障害相談センター、地域活動支援センター等)
6. 障害者団体・患者会
7. 民生委員や障害者相談員
8. 家族
9. 友人・知人
10. 相談したいが、相談窓口を知らない
11. 相談したいが、どこ(だれ)にも相談できない
12. その他()

問16 障害者福祉サービスへのご意見、ご要望やあなたの生活上の喜び、悩みなど、何でも結構

ですのでご自由にお書きください。

【障害者福祉サービスへのご意見、ご要望】

【生活上の喜びなど】

【悩みや不安など】

【その他】

調査にご協力いただき大変ありがとうございました。

2、アンケート調査

「第5期江戸川区障害福祉計画」策定のための アンケート調査 ご協力をお願い

区民の皆さまにおかれましては、日頃から区政にご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

この度、江戸川区では、平成30年度から32年度を計画期間とする「第5期江戸川区障害福祉計画」の策定に向けて、アンケート調査を実施することになりました。

このアンケート調査は、区内在住の20歳以上の方から無作為に抽出させていただいた方を対象に実施いたします。

調査結果はすべて統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。また、江戸川区個人情報保護条例に基づき、秘密の保持には万全を尽くすとともに、調査の目的以外には使用いたしませんのでご迷惑をおかけすることはありません。つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成29年2月
江戸川区

【お問い合わせ】 江戸川区役所福祉部障害者福祉課計画係
電話 03(5662)0044 / FAX 03(3656)5874

【ご記入にあたってのお願い】

1. ご本人が記入することが難しい場合、主に介助をなさっている方やご家族の方などがお手伝い又はご意向を汲みとって代わりに記入をお願いします。
2. 回答はあてはまる番号に○をつけてください。質問ごとに（1つに○）（あてはまるものすべてに○）などの指示がありますので、それにしたがって回答してください。
3. 質問の回答が「その他」である場合は、具体的な内容を（ ）内に記入してください。
4. ご記入が済みましたら、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れて
3月15日 水曜日 までにお近くのポストにご投函ください。
5. 返信用封筒の裏に差出人のご住所、お名前などを書く必要はありません。

問1 あなたの身近に障害のある方がいますが、または、これまでいたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

1. 自分自身	2. 家族等身近な親族	3. 学校・職場
4. 隣近所	5. 身近にいたことはない	6. わからない
7. その他（ ）		

問2 あなたは、現在、何らかの日常生活における支援を必要としている方が、十分な障害福祉サービスを受けているとお考えですか。（1つに○）

1. 十分	2. ある程度十分	3. 不十分
4. わからない	5. その他（ ）	

問3 区では、障害のある方の地域生活をより良いものとしていくため、今後どのようなサービスや支援に力を入れていくべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 在宅での福祉サービスの充実
2. 障害のある方が暮らしやすいバリアフリー住宅及びグループホームの充実
3. 障害のある方が日中に活動できるサービスの充実
4. 障害のある方に対応した相談窓口の増設
5. 障害のある方への理解促進
6. 地域の見守り支援の充実
7. 駅や道路などのバリアフリー化
8. 就労に向けた訓練・支援の充実
9. 教育・生涯学習(趣味やスポーツ、社会参加等)の場の充実
10. 医療やリハビリテーションの充実
11. 防犯・災害時の支援
12. 特になし
13. わからない
14. その他()

問4 障害福祉サービスを充実させることと、その財源となる税金などの負担についてあなたの考えに最も近いのは次のどの意見ですか。(1つに○)

1. 障害福祉サービスを充実させるためには、税金などの負担が重くなってもやむを得ない
2. 障害福祉サービスは充実させるべきだと思いが、税金などの負担が今より重くなるのは好ましくない
3. 障害福祉サービスを充実させることができなくても、税金などの負担を軽くすべきである
4. わからない
5. その他()

裏面につづく →

問5 あなたは障害のある方と同じ地域で共に生活していくために、どのようなことができると思いますか。(あてはまるものすべてに)

1. 障害についての講演会などに参加
2. スポーツやレクリエーション活動など地域の場での交流
3. 朗読や手話などコミュニケーションの手伝い
4. 車椅子などの移動の手伝い
5. 災害時などの避難の手助け
6. 話し相手や相談相手
7. できることはない
8. わからない
9. その他()

問6 あなたは地域社会の中に障害のある方への差別・偏見、または配慮のなさがあると思いますか。(1つに)

1. あると思う
2. 少しはあると思う
3. ないと思う
4. なんともしえない
5. わからない

問6(前の問)で「1」又は「2」に をした方にうかがいます

問6-1 あなたはどのようなところに障害のある方への差別・偏見、または配慮のなさを感じますか。(あてはまるものすべてに)

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 仕事や収入 | 2. 教育・育児 | 3. 医療機関での対応 |
| 4. 趣味やスポーツの活動 | 5. 地域交流 | 6. 店などでの対応 |
| 7. 道路・交通機関 | 8. 建物・市街の構造 | 9. 社会制度・慣習 |
| 10. 交際・結婚 | 11. 言葉遣い | |
| 12. その他() | | |

問7 障害者福祉施策についてご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただき大変ありがとうございました。

江戸川区障害者（児）実態調査及びアンケート調査報告書

平成29年5月

編集・発行

江戸川区福祉部障害者福祉課

〒132-8501

東京都江戸川区中央一丁目4番1号

電話 03(5662)0044

FAX 03(3656)5874

